第２章　小学校・中学校

小中学校の校舎等は、児童生徒が義務教育を受けるため必要不可欠です。一方でその施設については老朽化が年々顕著となっており、各学校における修繕必要箇所は増加の一途をたどっています。また、近年の少子化の影響から児童生徒数が激減しており、その傾向は今後も続いていくものと見込まれています。

本章では、小中学校の施設として、校舎、体育館（屋内運動場）、プール及び給食施設（給食センターと自校式の給食室）について取り扱います（※１）。

第１節　学校施設（校舎）

本節では、本市の小中学校の施設や児童生徒数・学級数の現状を確認します。また、小・中一貫校化も含めた学校統廃合の検討を今後行う際に、その議論に資する内容となることを目指します。

１　施設概要

現在本市には、休校中の小島小・中学校（※２）を除き、２９の市立小学校と１６の市立中学校があります（市内には、市立以外の国公立や私立の小中学校はありません。）。これら小中学校の施設の概要は、次頁以降に続く図表２-１-１ Ａ及び Ｂのとおりです。

校舎の数は、複数の校舎がある学校も存在することから、小島小・中学校を除いても１００棟以上あります（※３）。基本方針などでも紹介したとおり、本市の施設の総延床面積の約５２％を学校教育施設が占めていますので、特にハコモノ施設におけるアセットマネジメントについては、学校施設が最大の課題である状況にあります。

【図表2-1-1 A】施設概要（小学校）1/5

2016年3月31日現在

No.	名称		敷地面積（㎡）	建築年度	延床面積（㎡）	耐用年限	修繕時期	耐震性能	補助金	備考
①	熊谷東小学校	教室棟【第2・3校舎】	20,689.30	1978	4,293.45	2038	2008	○	△	2008年度大規模修繕済。児童ｸﾗﾌﾞ転用分153.85㎡を除く。
		管理教室棟【第1校舎】		1979	2,498.15	2039	2009	○	△	2008年度大規模修繕済
		その他			99.36					渡り廊下、陶芸小屋、物置、屋外便所
		（小計）			6,890.96					
②	熊谷西小学校	教室棟1【3号棟】	26,623.00	1970	1,958.67	2030	2000	○	△	児童ｸﾗﾌﾞ転用分157.5㎡を除く。
		教室棟2【1号棟】		1978	2,072.76	2038	2008	○	△	
		管理教室棟【2号棟】		1987	4,459.80	2047	2017	○	△	
		その他			101.56					物置、体育器具庫、屋外便所
		（小計）			8,592.79					

（※１）校舎以外の施設（機能）については、本章第２～４節において別途取り扱っていますので、そちらを参照してください。ただし、体育館（屋内運動場）に関しては、本節でも取り扱っています。

（※２）小島小・中学校については、休校前もいわゆる小中一貫校ではなく、制度上は別個の小学校と中学校でしたが、校舎や体育館など施設は共用であり、実態としては小学校と中学校の複合施設といえる状況でした。そのためここでは、必要に応じ、「小島小学校」と「小島中学校」として別個に取り扱ったり、「小島小・中学校」とまとめて取り扱ったりします。

（※３）増築した校舎については、補助金等の関係上、既存部分と増築部分とを台帳上別個に管理している場合があるため、図表２-１-１ Ａ及び Ｂにおけるデータの個数は、実際の校舎の数よりも多くなっている場合があります。

【図表2-1-1 A】施設概要(小学校)2/5

2016年3月31日現在

No.	名称		敷地面積(㎡)	建築年度	延床面積(㎡)	耐用年限	修繕時期	耐震性能	補助金	備考
③	石原小学校	教室棟1	19,682.00	1956	760.00	2016	1986	○	△	1992年度大規模修繕済。児童ｸﾗﾌﾞ転用分313.11㎡を除く。
		教室棟2		1973	3,012.66	2033	2003	○	△	2001年度大規模修繕済
		管理棟		1979	2,820.46	2039	2009	○	△	
		その他			403.04					渡り廊下1～4、陶芸小屋、物置、体育小屋、屋外便所
		(小計)			6,996.16					
④	成田小学校	教室棟【第2校舎】	22,070.68	1976	1,305.38	2036	2006	○	△	2006年度大規模修繕済。児童ｸﾗﾌﾞ転用分72.67㎡を除く。
		管理教室棟【第1校舎】		1985	4,215.23	2035	2010	○	△	〃
		その他			8.03					倉庫
		(小計)			5,528.64					
⑤	大幡小学校	教室棟1【第3校舎】(東側部分)	19,258.20	1974	843.00	2034	2004	○	△	2007年度大規模修繕済。児童ｸﾗﾌﾞ転用分230.00㎡を除く。
		教室棟2【第3校舎】(西側部分)		1977	458.16	2037	2007	○	△	2007年度大規模修繕済。児童ｸﾗﾌﾞ転用分66.24㎡を除く。
		教室棟3【第1校舎】		1982	966.11	2042	2012	○	△	〃
		教室棟4【第2校舎】		1982	1,422.26	2042	2012	○	△	〃
		教室棟5【第4校舎】		1990	1,999.08	2050	2020	○	△	〃
		特別教室棟(特別教室)		1982	1,690.72	2042	2012	○	△	〃
		その他			94.79					物置1・2、油庫、体育小屋
		(小計)			7,474.12					一部借地(3,062.00㎡)
⑥	佐谷田小学校	管理教室棟	29,083.00	1977	3,695.68	2037	2007	○	△	2006年度大規模修繕済。児童ｸﾗﾌﾞ転用分114.74㎡を除く。
		その他			110.72					物置1～3、屋外便所
		(小計)			3,806.40					
⑦	大麻生小学校	管理教室棟	17,842.91	1963	1,558.41	2023	1993	○	△	1989年度大規模修繕済。児童ｸﾗﾌﾞ転用分63.81㎡を除く。
		図書・図工室棟		1988	416.09	2048	2018	○		
		特別教室(体育館)		1988	993.28	2038	2013	○	△	体育館1階部分
		その他			67.10					ﾘｻｲｸﾙ小屋、物置、体育倉庫
		(小計)			3,034.88					一部借地(2,460.00㎡)
⑧	玉井小学校	教室棟1【北校舎】	17,575.00	1968	409.47	2028	1998	○	△	1993年度大規模修繕済。児童ｸﾗﾌﾞ転用分370.85㎡を除く。
		教室棟2【中校舎】		1975	3,305.20	2035	2005	○	△	1993年度大規模修繕済
		管理特別教室棟【南校舎】		1987	2,558.00	2047	2017	○	△	〃
		その他			69.55					倉庫1・2、物置
		(小計)			6,342.22					
⑨	久下小学校	教室棟1【北校舎】(東側部分)	17,793.67	1978	1,051.89	2038	2008	○	△	
		教室棟2【北校舎】(西側部分)		1981	1,376.95	2041	2011	○	△	
		教室棟3【南校舎】(東側部分)		1994	1,082.75	2054	2024	○	△	
		管理棟【南校舎】(西側部分)		1981	1,223.49	2041	2011	○	△	
		その他			147.07					物置1・2、倉庫、油庫、体育小屋、屋外便所
		(小計)			4,882.15					

【図表2-1-1 A】施設概要(小学校)3/5　　2016年3月31日現在

No.	名称		敷地面積(㎡)	建築年度	延床面積(㎡)	耐用年限	修繕時期	耐震性能	補助金	備考
⑩	熊谷南小学校	教室棟【第3校舎】	19,318.00	1964	1,118.77	2024	1994	○	△	1991年度大規模修繕済
		特別教室棟【第2校舎】		1989	828.11	2049	2019	○		〃
		管理教室棟【第1校舎】		1979	2,549.11	2039	2009	○	△	1991年度大規模修繕済。児童ｸﾗﾌﾞ転用分100.08㎡を除く。
		その他			44.47					物置、倉庫、屋外ﾄｲﾚ
		(小計)			4,540.46					
⑪	中条小学校	管理教室棟1	11,841.00	1978	1,155.48	2038	2008	○	△	
		管理教室棟2【北校舎】		1987	2,219.41	2047	2017	○	△	児童ｸﾗﾌﾞ転用分73.30㎡を除く。
		その他			151.14					物置、倉庫・体育器具庫、屋外便所
		(小計)			3,526.03					
⑫	吉岡小学校	教室棟【1号棟】	24,477.00	1966	1,164.47	2026	1996	○	△	1993年度大規模修繕済
		特別教室棟【2号棟】		1971	1,168.08	2031	2001	○	△	2006年度大規模修繕済
		管理特別教室棟【3号棟】		1989	2,070.02	2049	2019	○	△	〃
		その他			74.48					体育倉庫、屋外便所
		(小計)			4,477.05					
⑬	別府小学校	教室棟【3号棟(東側)・4号棟(西側)】	33,274.00	1986	2,783.95	2046	2016	○	△	児童ｸﾗﾌﾞ転用分237.45㎡を除く。
		特別教室棟【1号棟(東側)・2号棟(西側)】		1986	2,822.93	2046	2016	○	△	
		その他			120.51					渡り廊下、農具小屋、物置、体育小屋
		(小計)			5,727.39					
⑭	三尻小学校	教室棟1	15,865.00	1961	860.08	2021	1991	○	△	1990年度大規模修繕済
		教室棟2		1967	1,187.41	2027	1997	○	△	〃
		管理教室棟		1978	1,734.57	2038	2008	○	△	〃
		その他			25.00					体育小屋
		(小計)			3,807.06					
⑮	奈良小学校	教室棟	20,464.00	1966	1,129.89	2026	1996	○	△	1993年度大規模修繕済。児童ｸﾗﾌﾞ転用分63.00㎡を除く。
		管理教室棟		1971	1,956.46	2031	2001	○	△	1993年度大規模修繕済
		その他			150.71					物置、体育倉庫、屋外便所
		(小計)			3,237.06					一部借地(5,155.00㎡)
⑯	星宮小学校	管理教室棟	12,776.00	1983	2,446.71	2043	2013	○	△	
		その他			20.37					物置、屋外便所
		(小計)			2,467.08					
⑰	桜木小学校	管理教室棟	14,180.00	1970	2,485.74	2030	2000	○	△	1996年度大規模修繕済
		その他			83.36					屋外便所、油庫、倉庫
		(小計)			2,569.10					

【図表2-1-1 A】施設概要(小学校)4/5

2016年3月31日現在

No.	名称		敷地面積(㎡)	建築年度	延床面積(㎡)	耐用年限	修繕時期	耐震性能	補助金	備考
⑱	籠原小学校	管理教室棟【B棟】	27,630.00	1972	2,210.74	2032	2002	○	△	2001年度大規模修繕済
		教室棟1【A棟】		1972	1,421.83	2032	2002	○	△	2000年度大規模修繕済
		教室棟2【D棟】		1972	1,080.81	2032	2002	○	△	2001年度大規模修繕済
		教室棟3【C棟】		1978	719.50	2038	2008	○	△	2001年度大規模修繕済。児童ｸﾗﾌﾞ転用分125.17㎡を除く。
		その他			137.53					渡り廊下、物置、体育倉庫、屋外便所
		(小計)			5,570.41					
⑲	新堀小学校	管理教室棟	24,476.00	1979	3,082.69	2039	2009	○	△	
		特別教室		1981	177.93	2041	2011	○		
		その他			78.02					倉庫、物置、灯油庫
		(小計)			3,338.64					
⑳	吉見小学校	管理教室棟	18,521.59	1986	3,434.24	2046	2016	○	△	
		その他			41.41					体育小屋
		(小計)			3,475.65					
㉑	市田小学校	管理教室棟1	15,390.25	1977	1,135.06	2037	2007	○	△	児童ｸﾗﾌﾞ転用分114.70㎡を除く。
		管理教室棟2		1977	1,796.13	2037	2007	○	△	
		その他			33.12					物置
		(小計)			2,964.31					
㉒	長井小学校	教室棟1【北校舎(東側部分)】	28,563.00	1977	1,377.74	2037	2007	○	△	2002年度大規模修繕済。児童ｸﾗﾌﾞ転用分129.60㎡を除く。
		教室棟2【北校舎(西側部分)】		1980	1,605.71	2040	2010	○	△	2002年度大規模修繕済
		管理棟【南校舎】		1981	1,875.12	2041	2011	○	△	
		その他			11.00					屋外便所
		(小計)			4,869.57					
㉓	秦小学校	教室棟	17,642.00	1983	2,271.44	2043	2013	○	△	児童ｸﾗﾌﾞ転用分60.00㎡を除く。
		管理教室棟		1992	699.20	2052	2022	○		
		その他			20.25					屋外便所
		(小計)			2,990.89					一部借地(4,632.00㎡)
㉔	妻沼小学校	教室棟【北校舎】	26,721.00	1971	2,609.55	2031	2001	○	△	1996年度大規模修繕済
		管理教室棟【南校舎】		1978	2,125.49	2038	2008	○	△	〃
		その他			93.37					倉庫1・2、焼き物小屋、屋外ﾄｲﾚ
		(小計)			4,828.41					
㉕	男沼小学校	教室棟	14,581.95	1982	1,091.44	2042	2012	○	△	
		管理棟		1992	564.57	2052	2022	○		
		多目的室		2001	108.00	2051	2026	○		
		その他			29.97					焼き物小屋、屋外便所
		(小計)			1,793.98					一部借地(795.00㎡)

【図表2-1-1 A】施設概要(小学校)5/5

2016年3月31日現在

No.	名称		敷地面積(㎡)	建築年度	延床面積(㎡)	耐用年限	修繕時期	耐震性能	補助金	備考
㉖	小島小学校	管理教室棟	7,700.61	1989	533.40	2049	2019	○		休校中
㉗	太田小学校	管理教室棟	17,748.00	1977	1,485.18	2037	2007	○	△	2002年度大規模修繕済
		特別教室棟		1987	1,312.36	2047	2017	○	△	2002年度大規模修繕済。児童ｸﾗﾌﾞ転用分85.80㎡を除く。
		その他			9.72					物置
		(小計)			2,807.26					
㉘	妻沼南小学校	校舎棟	30,603.00	1993	3,620.33	2053	2023	○	△	
		その他			93.22					ﾌﾟﾛﾊﾟﾝ庫、体育用具庫、屋外便所
		(小計)			3,713.55					
㉙	江南南小学校	教室棟【北校舎】	29,993.57	1972	2,157.99	2032	2002	○	△	2000年度大規模修繕済
		管理教室棟1【南校舎(西側部分)】		1987	1,161.81	2047	2017	○	△	
		管理教室棟2【南校舎(東側部分)】		1987	952.06	2047	2017	○	△	2000年度大規模修繕済
		その他			173.64					物置1･2、焼釜室、飼育小屋、灯油庫、体育用具庫、屋外便所
		(小計)			4,445.50					
㉚	江南北小学校	教室棟【北校舎】	25,083.44	1969	2,131.01	2029	1999	○	△	1998年度大規模修繕済
		特別教室棟【南校舎】		1989	1,873.40	2049	2019	○	△	〃
		その他			121.63					物置、事務室、体育用具庫、屋外便所
		(小計)			4,126.04					
	合計		627,467.17		129,357.16					

＊ 体育館(屋内運動場)、プール及び自校式給食施設は、別途掲載しています(本章第2～4節)。

【図表2-1-1 B】施設概要(中学校)1/3

2016年3月31日現在

No.	名称		敷地面積(㎡)	建築年度	延床面積(㎡)	耐用年限	修繕時期	耐震性能	補助金	備考
❶	荒川中学校	教室棟1	36,752.15	1977	2,658.21	2037	2007	○	△	
		教室棟2		1978	1,016.34	2038	2008	○	△	
		特別教室棟		1991	1,875.94	2051	2021	○	△	
		特別教室管理棟		1981	1,339.39	2041	2011	○	△	
		その他			165.03					部室、物置、体育用具庫
		(小計)			7,054.91					
❷	富士見中学校	管理教室棟	26,603.64	1982	5,055.83	2042	2012	○	△	2007年度大規模修繕済
		特別教室棟		1982	2,029.82	2042	2012	○	△	〃
		その他			384.44					部室、廊下、倉庫、物置1･2、灯油庫
		(小計)			7,470.09					

【図表2-1-1 B】施設概要(中学校)2/3

2016年3月31日現在

No.	名称		敷地面積(㎡)	建築年度	延床面積(㎡)	耐用年限	修繕時期	耐震性能	補助金	備考
❸	大原中学校	管理教室棟	21,964.15	1962	1,202.85	2022	1992	○	△	1990年度大規模修繕済
		教室棟1		1965	484.44	2025	1995	○	△	〃
		教室棟2		1966	1,001.76	2026	1996	○	△	〃
		特別教室棟		1978	2,417.07	2038	2008	○	△	
		その他			244.32					部室、ｺﾝﾃﾅ室、物置1～5、体育倉庫、屋外便所
		(小計)			5,350.44					一部借地(2,346.00㎡)
❹	熊谷東中学校	教室棟1	38,495.30	1963	2,599.62	2023	1993	○	△	1988年度大規模修繕済
		教室棟2		1985	1,913.86	2045	2015	○	△	
		管理教室棟		1964	1,152.70	2024	1994	○		1988年度大規模修繕済
		その他			391.90					部室器具庫、倉庫、ｺﾝﾃﾅ室1・2、物置
		(小計)			6,058.08					
❺	玉井中学校	管理教室棟	27,978.60	1978	4,061.67	2038	2008	○	△	
		特別教室棟		1995	1,644.00	2055	2025	○	△	
		その他			184.25					部室、燃料庫、物置1・2、倉庫
		(小計)			5,889.92					一部借地(12,117.00㎡)
❻	大麻生中学校	管理教室棟	22,511.00	1984	2,593.00	2044	2014	○	△	
		特別教室棟		1984	1,011.62	2044	2014	○	△	
		その他			199.98					渡り廊下、物置、体育用具庫
		(小計)			3,804.60					
❼	中条中学校	管理教室棟	27,869.00	1980	2,259.90	2040	2010	○	△	
		特別教室棟		1992	2,183.95	2052	2022	○	△	
		その他			136.39					部室、倉庫1・2、物置、灯油庫、屋外便所
		(小計)			4,580.24					一部借地(1,900.00㎡)
❽	吉岡中学校	管理教室棟	24,593.00	1973	1,956.59	2033	2003	○	△	2005年度大規模修繕済
		教室棟		1992	2,498.39	2052	2022	○	△	〃
		その他			95.51					部室、倉庫1・2
		(小計)			4,550.49					
❾	別府中学校	管理教室棟	25,423.26	1979	2,342.73	2039	2009	○	△	2006年度大規模修繕済
		教室棟		1990	2,198.84	2050	2020	○	△	〃
		その他			165.03					部室、物置1・2、油庫倉庫
		(小計)			4,706.60					
❿	三尻中学校	管理教室棟	29,976.00	1970	2,437.67	2030	2000	○	△	1991年度大規模修繕済
		教室棟		1981	2,337.83	2041	2011	○	△	〃
		特別教室棟		1993	1,470.68	2053	2023	○		
		その他			209.30					部室、物置1・2、渡り廊下、倉庫、油庫
		(小計)			6,455.48					

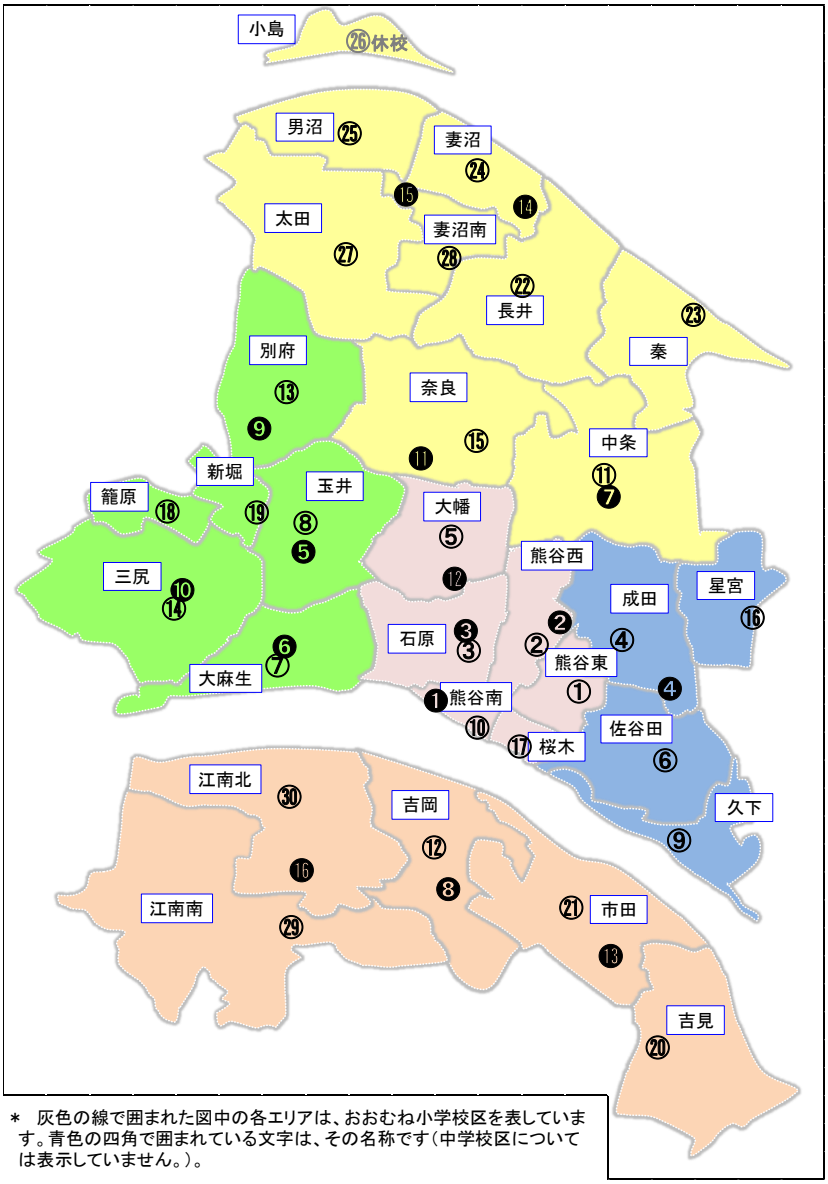
【図表2-1-1 B】施設概要(中学校)3/3

2016年3月31日現在

No.	名称		敷地面積(㎡)	建築年度	延床面積(㎡)	耐用年限	修繕時期	耐震性能	補助金	備考
⓫	奈良中学校	管理教室棟	24,581.00	1980	2,890.49	2040	2010	○	△	2006年度大規模修繕済
		特別教室棟		1988	1,270.97	2048	2018	○		〃
		その他			167.32					倉庫体育器具庫、部室、風除室、油庫、屋外便所
		(小計)			4,328.78					
⓬	大幡中学校	教室棟	32,061.01	1982	1,788.60	2042	2012	○	△	
		特別教室棟		1982	1,709.68	2042	2012	○	△	
		管理棟		1982	1,153.74	2042	2012	○		
		その他			128.81					部室、物置
		(小計)			4,780.83					
⓭	大里中学校	管理教室棟	23,799.00	1965	3,046.72	2025	1995	○	△	1987年度大規模修繕済
		特別教室棟		1993	1,195.95	2053	2023	○	△	
		その他			176.79					部室、物置、屋外便所、渡り廊下
		(小計)			4,419.46					
⓮	妻沼東中学校	教室棟	38,601.00	1963	2,579.46	2023	1993	○	△	1991年度大規模修繕済
		管理教室棟		1984	1,471.11	2044	2014	○	△	
		特別教室棟		2001	1,266.00	2061	2031	○		
		その他			102.08					通路、体育用具庫
		(小計)			5,418.65					
⓯	妻沼西中学校	教室棟	27,913.00	1963	2,579.46	2023	1993	○	△	1991年度大規模修繕済
		管理棟		1987	1,442.48	2047	2017	○	△	
		特別教室棟		2001	1,266.00	2061	2031	○		
		その他			122.26					部室、体育用具庫、屋外便所
		(小計)			5,410.20					
㉖	小島中学校	校舎	－	1989	943.02	2049	2019	○		休校中
		その他			184.90					木工室、物置1・2、用務員室
		(小計)			1,127.92					敷地は小島小学校と共通
⓰	江南中学校	教室棟	29,135.00	1984	4,591.77	2044	2014	○	△	
		管理棟		1985	1,106.96	2045	2015	○	△	
		その他			90.45					用具庫、ﾌﾟﾛﾊﾟﾝ庫、油庫、機械室
		(小計)			5,789.18					
	合計		458,256.11		87,195.87					

＊ 体育館(屋内運動場)、プール及び自校式給食施設は、別途掲載しています(本章第2～4節)。

【図表2-1-2】配置状況（小中学校）



＊　灰色の線で囲まれた図中の各エリアは、おおむね小学校区を表しています。青色の四角で囲まれている文字は、その名称です（中学校区については表示していません。）。

2　配置状況

各学校の配置状況は、図表2-1-2のとおりです。

合併前の旧熊谷市に31校、旧妻沼町に９校（小島小・中学校を１校分として計算）、旧大里町と旧江南町に各３校の配置です。

小学校の配置については、駅周辺など人口の多い地区ではやや密になっていますが、市全体としてはおおむね均等に配置されています。

一方で中学校の配置については、小学校よりも配置の偏りが大きいように見受けられます。例えば、西部エリアに４つの中学校（玉井、大麻生、別府、三尻）があるのに対し、東部エリアは１つ（熊谷東）です。各エリアの人口は、概数で西部４７，５００人に対し、東部２７，１００人ですので、中学校１校当たりの人口を計算すると、西部エリア１１，８７５人／校に対し東部エリア２７，１００人／校となり、２倍以上の開きがあります。

3　児童生徒数と学級数の現状

学校の施設としての利用状況の代わりに、ここでは児童生徒数と学級数の状況についてみることとします（※4）。

まず、現状を確認する前に、熊谷市の児童生徒数の推移についてまとめた次頁の図表2-1-3 A、 B及び C を参照してください。現在の児童生徒数は、1983（昭和58）年当時（30数年前）と比較すると、その5～6割程度にまで減少しています。2002（平成14）年当時（約15年前）と比較しても、その8割程度にまで減少しています。

いずれにしても、児童生徒数の減少が顕著です。このような児童生徒の大幅な減少によって普通教室に空きが生じ、少人数教室等として利用されたり、児童クラブに転用されたりして、校舎の利用方法が変わるようになってきました。この傾向は、人口減少が続く今後も継続していくものと考えられます。

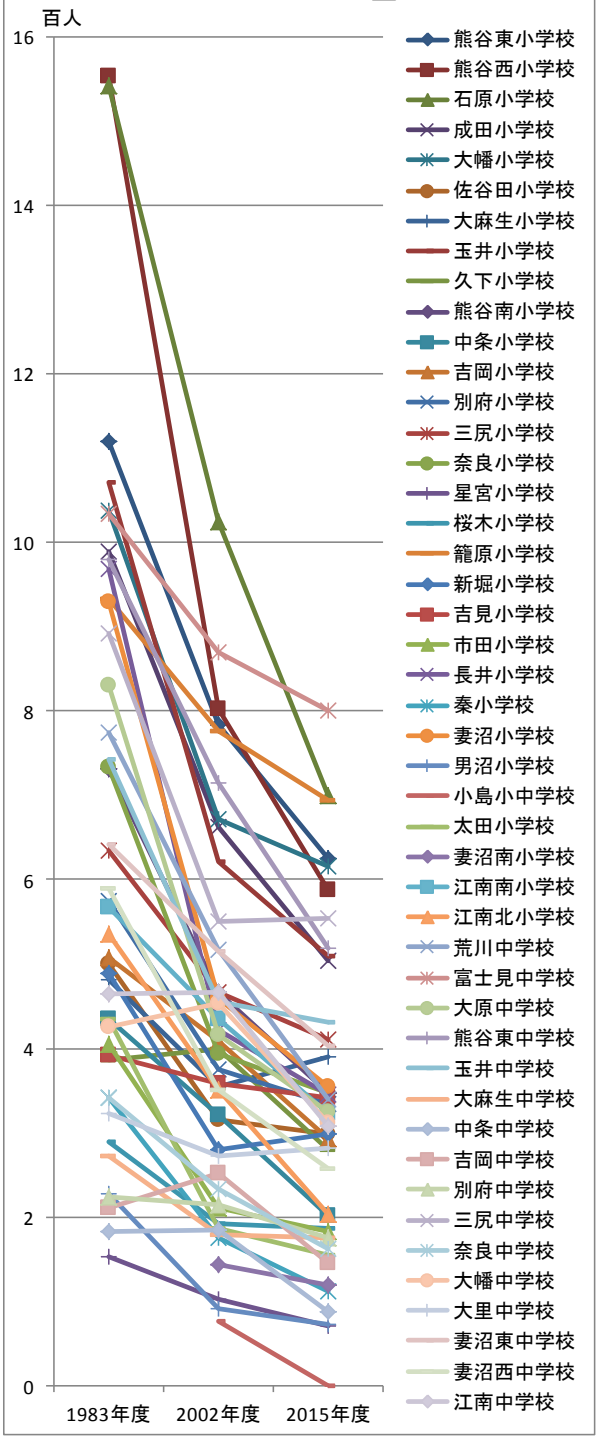
（※4）学校施設の利用状況については、普通教室や特別教室として使用されている諸室の数や面積、余裕教室の数やそれが教室数全体に占める割合などを対象とすることもできます。しかし、実態としては、普通教室の特別教室への転用などはかなり柔軟に行われており、また、余裕教室についても、その多くは少人数指導教室などに転用され、実際には何らかの形で使用されています。そのためここでは、児童生徒数を中心にみていきます。

【図表2-1-3 A】児童生徒総数の推移（小中学校）　　単位：人

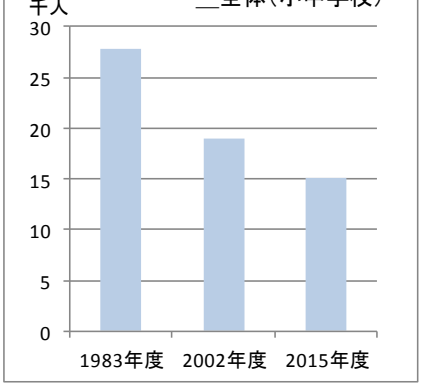
No.	名称	児童生徒の総数			比率	
		1983（昭和58）年度	2002（平成14）年度	2015（平成27）年度	1983年度基準の場合	2002年度基準の場合
①	熊谷東小学校	1,119	783	626	0.56	0.80
②	熊谷西小学校	1,553	802	587	0.38	0.73
③	石原小学校	1,542	1,025	699	0.45	0.68
④	成田小学校	989	663	504	0.51	0.76
⑤	大幡小学校	1,038	672	616	0.59	0.92
⑥	佐谷田小学校	500	315	298	0.60	0.95
⑦	大麻生小学校	481	354	389	0.81	1.10
⑧	玉井小学校	1,071	622	510	0.48	0.82
⑨	久下小学校	387	399	279	0.72	0.70
⑩	熊谷南小学校	731	467	347	0.47	0.74
⑪	中条小学校	434	320	201	0.46	0.63
⑫	吉岡小学校	507	408	292	0.58	0.72
⑬	別府小学校	574	375	333	0.58	0.89
⑭	三尻小学校	635	467	411	0.65	0.88
⑮	奈良小学校	734	393	347	0.47	0.88
⑯	星宮小学校	153	103	71	0.46	0.69
⑰	桜木小学校	289	192	187	0.65	0.97
⑱	籠原小学校	933	777	695	0.74	0.89
⑲	新堀小学校	488	279	298	0.61	1.07
⑳	吉見小学校	391	358	342	0.87	0.96
㉑	市田小学校	404	211	183	0.45	0.87
㉒	長井小学校	968	421	345	0.36	0.82
㉓	秦小学校	341	175	111	0.33	0.63
㉔	妻沼小学校	929	458	355	0.38	0.78
㉕	男沼小学校	228	92	73	0.32	0.79
㉖	小島小中学校	－	77	0	－	0.00
㉗	太田小学校	435	186	154	0.35	0.83
㉘	妻沼南小学校	－	144	119	－	0.83
㉙	江南南小学校	567	435	322	0.57	0.74
㉚	江南北小学校	536	351	204	0.38	0.58
❶	荒川中学校	774	516	340	0.44	0.66
❷	富士見中学校	1,034	869	800	0.77	0.92
❸	大原中学校	830	416	325	0.39	0.78
❹	熊谷東中学校	979	715	519	0.53	0.73
❺	玉井中学校	743	456	431	0.58	0.95
❻	大麻生中学校	273	178	176	0.64	0.99
❼	中条中学校	182	184	87	0.48	0.47
❽	吉岡中学校	210	252	146	0.70	0.58
❾	別府中学校	223	215	176	0.79	0.82
❿	三尻中学校	892	551	555	0.62	1.01
⓫	奈良中学校	342	233	163	0.48	0.70
⓬	大幡中学校	425	453	311	0.73	0.69
⓭	大里中学校	322	273	282	0.88	1.03
⓮	妻沼東中学校	641	515	403	0.63	0.78
⓯	妻沼西中学校	590	351	257	0.44	0.73
⓰	江南中学校	465	466	308	0.66	0.66
	小学校の児童総数	18,957	12,324	9,898	0.52	0.80
	中学校の生徒総数	8,925	6,643	5,279	0.59	0.79
	合計	27,882	18,967	15,177	0.54	0.80

＊1　「比率」は、基準の年度の人数を1とした場合の2015年度の人数の値です。
＊2　小島小中学校の1983年度の「児童生徒の総数」は、不明です。
＊3　妻沼南小学校は、1994（平成6）年開校です。

【図表2-1-3 B】児童生徒総数の推移＿施設別（小中学校）



【図表2-1-3 C】児童生徒総数の推移＿全体（小中学校）



次に、現状に移ります。2016（平成 28）年5月現在の児童生徒数と学級数の現状は、図表 2-1-3Ｄ及びＥのとおりです。Ｅの図表の灰色の区域線は、おおむね小学校区を表しており、青い四角で囲まれているのはその校区名です（※5）。小中学校に付記された人数は、 Ｄ の図表に掲げた児童生徒の総数です。

小学校の児童数を比較すると、最も少ない星宮小学校の６７人に対し、最も多い石原小学校は７３２人と１１倍近い開きがあります。中学校の生徒数を比較すると、最少の中条中学校８９人と最多の富士見中学校７６２人とでは8倍以上の開きがあります。特に、富士見中学校と中条中学校は中学校区が隣接しているため、その差がより際立っているように見受けられます。

また、学級数で比較すると、星宮小など6学級に対し石原小２１学級、中条中など6学級に対し富士見中２１学級と、児童生徒数ほどの開きはありませんが、小規模校では１学級当たりの人数も少なくなっているためです。

学力向上の視点からは、教師の指導がよく行き届く少人数学級のメリットは、確かにあります（※6）。

【図表2-1-3 D】児童生徒総数及び普通学級数（小中学校）

○小学校

学校名	児童総数（人）	普通学級数
熊谷東小学校	614	18
熊谷西小学校	576	18
石原小学校	732	21
成田小学校	470	14
大幡小学校	597	18
佐谷田小学校	307	12
大麻生小学校	372	12
玉井小学校	501	17
久下小学校	267	10
熊谷南小学校	340	12
中条小学校	195	6
吉岡小学校	276	10
別府小学校	333	12
三尻小学校	405	12
奈良小学校	338	12
星宮小学校	67	6
桜木小学校	188	6
籠原小学校	680	19
新堀小学校	295	12
吉見小学校	336	12
市田小学校	168	6
長井小学校	349	12
秦小学校	114	6
妻沼小学校	347	12
男沼小学校	75	6
小島小学校	（休校中）	
太田小学校	156	6
妻沼南小学校	122	6
江南南小学校	308	12
江南北小学校	216	7
合計	9,744	332
1校当たり平均	336	11.4

○中学校

学校名	生徒総数（人）	普通学級数
荒川中学校	346	10
富士見中学校	762	21
大原中学校	302	8
熊谷東中学校	525	14
玉井中学校	408	12
大麻生中学校	184	6
中条中学校	89	6
吉岡中学校	128	6
別府中学校	186	6
三尻中学校	565	16
奈良中学校	176	6
大幡中学校	301	9
大里中学校	298	9
妻沼東中学校	379	11
妻沼西中学校	251	9
小島中学校	（休校中）	
江南中学校	307	9
合計	5,207	158
1校当たり平均	325	9.9

（備考）

1 児童総数等の基準日は、2016（平成28）年5月現在です。

2 児童（生徒）総数は特別支援学級の児童（生徒）も含めた人数ですが、学級数は普通学級の数のみを掲載しています。

3 中条中学校は、1学級当たりの定員に従うと3学級となりますが、少人数学級編成のため6学級となっています。

しかし一方で、児童生徒数が少なく、常に単学級（１クラス）ということになると、クラス替えができないため、人間関係が固定化してしまうことが懸念されます。

また、子供が社会に出る将来を考えれば、学校生活の中でも「競争」という側面は重要であると考えますが、児童生徒数が少ないと個人間の競争も生まれにくく、１クラスしかないとクラス対抗のような集団間の競争も難しくなります（※7）。

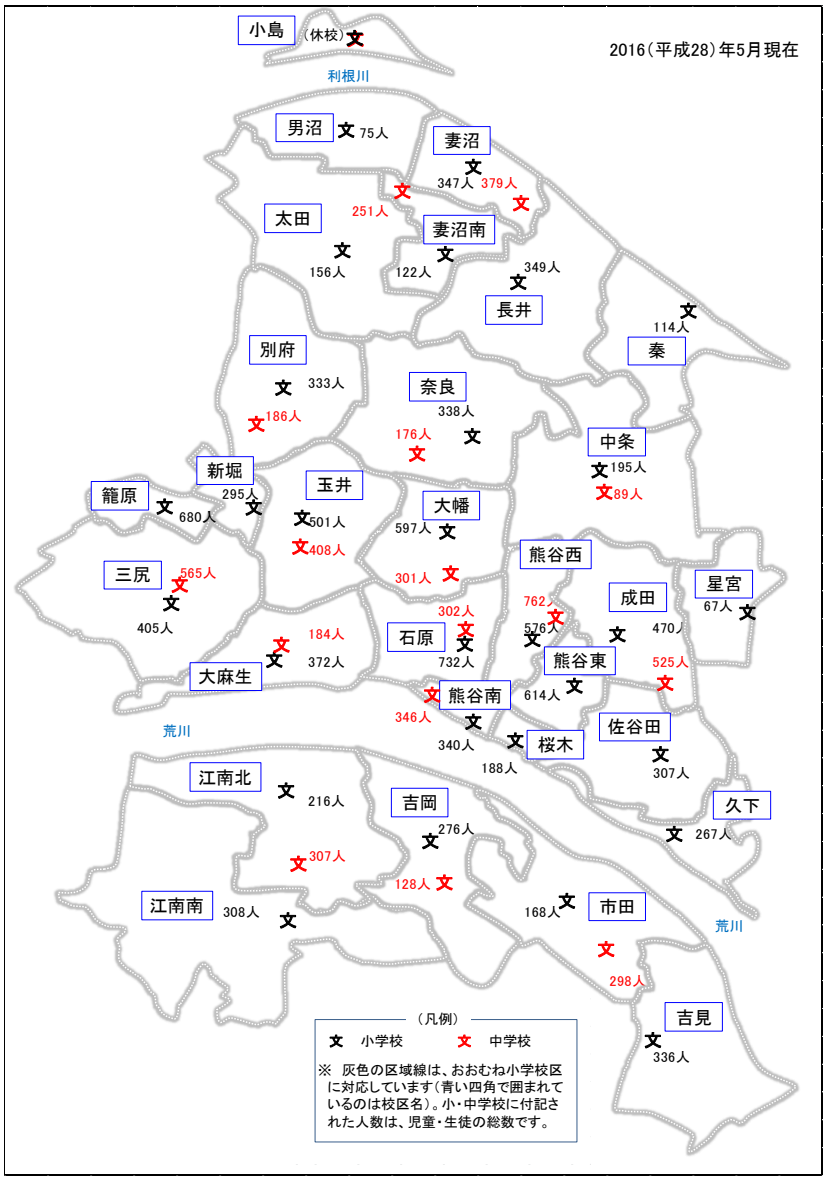
特に中学校においては、生徒数が少ない学校では部活動の成立が困難になっており、限られた選択肢から選ばざるを得ない状況などもあり、生徒の自己実現の機会を制限してしまっているのではないかと懸念されます。

（※5）中学校区は、区域線・校区名ともに表示していません。ただし、小学校区と中学校区が共通の場合もあります（単に「学校区」といいます。）。

（※6）少人数教育が良いなら全ての学校で導入すればよいという議論もあり得ると思いますが、そのために必要となる教室を整備し、教員を確保する財政上の負担は相当なものとなることから、現実的には極めて困難と思われます。

（※7）学年を越えて編成される「縦割りグループ」などは、全学年単学級でクラス対抗が実施できないような小規模校において、集団競争の機会を提供しているという側面もあると考えられます。

【図表2-1-3 E】学校の配置と児童生徒の総数（小中学校）



さらに、全学年単学級の小学校では新入生の人数も少なく、ときには新入生の人数が１桁ということもあります。

学校は、社会で生きていくためのルールやスキルを学ぶ場でもありますから、現実の社会と同様、小さい頃から自然と男女が共同参画する環境で学び、生活することが重要です。そのような環境を担保し、一つの小さな社会である学校がその内実においても社会の在り方を反映したものとなるようにするために、児童生徒数に関して学校が一定以上の規模となるよう、設置者である市として配慮する必要があります。

４　コスト状況

各学校のコスト状況は、図表2-1-4 A及び B（次頁）のとおりです。学校施設全体にかかるコストを掲載していますが、自校式給食室（本章第４節参照）がある場合はその分は除外しています。

児童生徒数の多かった時代に建てられた校舎等の老朽化が進んでおり、それにかかる修繕費等のコストが増大しつつあります。学校は、実費徴収等を別にすれば無償の施設であるため、他の公共施設のような利用料金等の収入はありません。表に掲載されている収入は、主に国・県からの運営費等に対する補助金、負担金などです。

【図表2-1-4 A】コスト状況（小学校）1/2　　単位：千円

No.	名称	費用（コスト）				収入				正味コスト ⓒ−ⓓ	備考（管理方法等）
		維持管理運営費		減価償却費ⓑ	合計 ⓒ=ⓐ+ⓑ	（経常）			（臨時）		
		（経常）ⓐ	（臨時）			使用料等	その他	合計ⓓ			
①	熊谷東小学校	31,810	387	76,773	108,583	0	14	14	193	108,569	
②	熊谷西小学校	30,852	387	91,151	122,003	0	14	14	193	121,989	
③	石原小学校	30,614	972	78,489	109,103	0	14	14	193	109,089	
④	成田小学校	30,401	387	71,141	101,542	0	159	159	193	101,383	
⑤	大幡小学校	33,067	387	77,359	110,426	0	14	14	193	110,412	
⑥	佐谷田小学校	22,786	387	51,712	74,498	0	14	14	193	74,484	
⑦	大麻生小学校	21,520	387	44,597	66,117	0	14	14	193	66,103	
⑧	玉井小学校	26,356	387	69,608	95,964	0	14	14	193	95,950	
⑨	久下小学校	20,135	7,185	58,937	79,072	0	14	14	193	79,058	
⑩	熊谷南小学校	20,458	972	57,190	77,648	0	14	14	193	77,634	

【図表2-1-4 A】コスト状況（小学校）2/2

単位：千円

No.	名称	費用（コスト）				収入				正味ｺｽﾄ ⓒ−ⓓ	備考（管理方法等）
		維持管理運営費		減価償却費ⓑ	合計 ⓒ=ⓐ+ⓑ	（経常）			（臨時）		
		（経常）ⓐ	（臨時）			使用料等	その他	合計ⓓ			
⑪	中条小学校	20,845	387	46,829	67,674	0	14	14	193	67,660	
⑫	吉岡小学校	20,327	972	57,478	77,805	0	14	14	193	77,791	
⑬	別府小学校	21,972	972	66,515	88,487	0	14	14	193	88,473	
⑭	三尻小学校	22,395	387	50,439	72,834	0	14	14	193	72,820	
⑮	奈良小学校	22,511	7,144	46,816	69,327	0	14	14	193	69,313	
⑯	星宮小学校	19,090	5,298	35,665	54,755	0	14	14	193	54,741	
⑰	桜木小学校	18,590	387	36,313	54,903	0	14	14	193	54,889	
⑱	籠原小学校	33,799	387	65,722	99,521	0	14	14	193	99,507	
⑲	新堀小学校	23,080	387	45,209	68,289	0	14	14	193	68,275	
⑳	吉見小学校	22,062	387	49,383	71,445	0	14	14	193	71,431	
㉑	市田小学校	20,458	387	41,778	62,236	0	14	14	193	62,222	
㉒	長井小学校	23,752	387	55,284	79,036	0	14	14	193	79,022	
㉓	秦小学校	20,342	972	37,700	58,042	0	14	14	193	58,028	
㉔	妻沼小学校	30,754	972	59,280	90,034	0	14	14	193	90,020	
㉕	男沼小学校	18,974	387	28,417	47,391	0	14	14	193	47,377	
㉖	小島小中学校	1,411	0	24,888	26,299	0	14	14	0	26,285	
㉗	太田小学校	19,799	972	39,514	59,313	0	14	14	193	59,299	
㉘	妻沼南小学校	20,402	387	50,966	71,368	0	14	14	193	71,354	
㉙	江南南小学校	21,919	972	56,876	78,795	0	14	14	193	78,781	
㉚	江南北小学校	19,401	387	54,077	73,478	0	14	14	193	73,464	
	合計	689,882	34,369	1,626,106	2,315,988	0	565	565	5,597	2,315,423	

【図表2-1-4 B】コスト状況（中学校）

単位：千円

No.	名称	費用（コスト）				収入				正味ｺｽﾄ ⓒ−ⓓ	備考（管理方法等）
		維持管理運営費		減価償却費ⓑ	合計 ⓒ=ⓐ+ⓑ	（経常）			（臨時）		
		（経常）ⓐ	（臨時）			使用料等	その他	合計ⓓ			
❶	荒川中学校	34,918	405	90,036	124,954	0	805	805	202	124,149	
❷	富士見中学校	42,106	405	89,588	131,694	0	805	805	202	130,889	
❸	大原中学校	32,326	405	73,809	106,135	0	805	805	202	105,330	
❹	熊谷東中学校	38,525	405	82,115	120,640	0	805	805	202	119,835	
❺	玉井中学校	38,296	405	76,881	115,177	0	805	805	202	114,372	
❻	大麻生中学校	25,968	405	57,940	83,908	0	805	805	202	83,103	
❼	中条中学校	27,366	405	64,960	92,326	0	805	805	202	91,521	
❽	吉岡中学校	25,178	405	64,297	89,475	0	805	805	202	88,670	
❾	別府中学校	25,385	405	64,372	89,757	0	805	805	202	88,952	
❿	三尻中学校	33,107	405	69,639	102,746	0	805	805	202	101,941	
⓫	奈良中学校	26,810	405	61,860	88,670	0	805	805	202	87,865	
⓬	大幡中学校	28,497	405	67,919	96,416	0	805	805	202	95,611	
⓭	大里中学校	28,020	405	46,786	74,806	0	805	805	202	74,001	
⓮	妻沼東中学校	37,657	405	70,135	107,792	0	805	805	202	106,987	
⓯	妻沼西中学校	28,606	405	68,657	97,263	0	805	805	202	96,458	
⓰	江南中学校	28,419	405	77,100	105,519	0	931	931	202	104,588	
	合計	501,184	6,480	1,126,094	1,627,278	0	13,006	13,006	3,232	1,614,272	

＊1　校舎のほか、体育館やプールの費用等も含めて集計しています。ただし、自校式給食室の費用等は除いています。自校式給食室のコスト状況については、本章第4節を参照してください。

＊2　市職員の人件費は「維持管理運営費」の経常部分に含まれます（県費負担教職員の人件費は含まれません。）。

5　災害時の役割

各学校施設は、いずれも災害発生時の指定緊急避難場所及び指定避難所です（図表２-1-5 参照）。

全ての小学校施設は、避難者の一時的な生活場所として優先的に開設される第一避難所に指定されています。一方、中学校施設は、いずれも第一避難所のみでは避難者を収容しきれない場合などに開設される第二避難所としての位置付けとなっています。

6　管理運営の状況

効率性を追求する場合、民間委託の検討もよく行われますが、現行の法令上、公立学校の学校教育そのもの（施設の維持管理以外の部分）を委託したり、指定管理者に任せたりすることはできません。学校の管理運営は全て直営で行っています。小中学校の施設は市の施設ですが、校長以下そこで学校教育に携わる教員の人件費は、市の予算による臨時教員などを除いて、県の負担となっています。「４　コスト状況」の図表２-1-４Ａ及びＢにおいても、県費負担教職員の人件費は含まれていません。施設のコストに占める人件費負担の大きさを考慮すれば、ある意味「効率的」といえるかもしれません（※8）。

学校教育（授業など）の委託はできませんが、授業などを除いた施設自体の

【図表2-1-5】災害時の役割（小中学校）

No.	名称	指定緊急避難場所			地震時（建物）	指定避難所の区分
		洪水時				
		荒川	利根川	福川等		
①	熊谷東小学校	②	○	○	○	第一避難所
②	熊谷西小学校	②	○	○	○	〃
③	石原小学校	②	○	○	○	〃
④	成田小学校	②	○	○	○	〃
⑤	大幡小学校	○	○	○	○	〃
⑥	佐谷田小学校	②	○	○	○	〃
⑦	大麻生小学校	②	○	○	○	〃
⑧	玉井小学校	○	○	○	○	〃
⑨	久下小学校	③	○	○	○	〃
⑩	熊谷南小学校	②	○	○	○	〃
⑪	中条小学校	○	②	○	○	〃
⑫	吉岡小学校	②	○		○	〃
⑬	別府小学校	○	○	○	○	〃
⑭	三尻小学校	○	○	○	○	〃
⑮	奈良小学校	○	○	②	○	〃
⑯	星宮小学校	○	②	○	○	〃
⑰	桜木小学校	②	○	○	○	〃
⑱	籠原小学校	○	○	○	○	〃
⑲	新堀小学校	○	○	○	○	〃
⑳	吉見小学校	○	○		○	〃
㉑	市田小学校	③	○		○	〃
㉒	長井小学校	○	③	②	○	〃
㉓	秦小学校	○	③	②	○	〃
㉔	妻沼小学校	○	②	○	○	〃
㉕	男沼小学校	○	②	○	○	〃
㉖	小島小中学校		③	○	○	〃
㉗	太田小学校	○	○	○	○	〃
㉘	妻沼南小学校	○	○	○	○	〃
㉙	江南南小学校（※）	○		○	○	〃
㉚	江南北小学校	②		○	○	〃
❶	荒川中学校	○	○	○	○	第二避難所
❷	富士見中学校	②	○	○	○	〃
❸	大原中学校	②	○	○	○	〃
❹	熊谷東中学校	②	○	○	○	〃
❺	玉井中学校	○	○	○	○	〃
❻	大麻生中学校	②	○	○	○	〃
❼	中条中学校	○	○	○	○	〃
❽	吉岡中学校（※）	○	○		○	〃
❾	別府中学校	○	○	○	○	〃
❿	三尻中学校	○	○	○	○	〃
⓫	奈良中学校	○	○	○	○	〃
⓬	大幡中学校	○	○	○	○	〃
⓭	大里中学校	③	○		○	〃
⓮	妻沼東中学校	○	③	○	○	〃
⓯	妻沼西中学校	○	②	○	○	〃
⓰	江南中学校	○		○	○	〃

＊　（※）の付された施設は、土砂災害に関する指定緊急避難場所及び指定避難所を兼ねます。

維持管理業務については、民間事業者に任せることも可能です。特に、ＰＦＩ方式で学校を含む複合施設を整備した場合などは、その事業者（特別目的会社＝ＳＰＣなど）が整備のみならず維持管理も引き続き行う例などもあります（※9）。そのような事例は現在の本市にはありませんが、維持管理運営業務の委託化を進め、コストの節減に努めているところです。

学校における利便性 ＝ サービスの向上に相当するのは、教育内容や学習環境の向上であると考えられます。これらに関しては、本市では、より多くの授業時間を確保できるなどのメリットがある二学期制を導入したり、比較的早い時期に全普通教室に（その後特別教室にも）エアコンを設置して学習環境の向上を図ったり、英語教育において「ラウンドシステム」を導入することで生徒が「使える英語」を習得することを目指したりと、教育内容と学習環境の両面において、その向上に努めています。

7　利用者・市民の負担状況

利用者である児童生徒１人当たり又は市民１人当たりのコスト（負担状況）をまとめたものが、次頁以降の図表 2-1-7 Ａ及び Ｂです。

義務教育は無償ですので当然利用者負担額はありません。赤色の枠線を付された「合計」欄は、主に施設面から見た児童生徒１人当たりの年間コストを表しています（子供１人当たりの教育コストそのものではなく、あくまでもその一部です。）。

一方、緑色の枠線を付された「合計」の欄は、市民１人当たりの年間コスト（負担額）です（市民には、児童生徒やその保護者も含まれます。）。

義務教育の学校にかかるコストを市民全員で負担しているわけですので、全体としての公平性に問題はありません（※10）。

ただし、効率性の視点も絡めて学校間の比較を行うと、格差があるとみることもできます。

児童生徒１人当たりの年間コストの平均（各表の赤色の枠線部分最下段）は、小学校では約２３万円、中学校では約３０万円ですが、児童生徒数の多い学校ではこの数値は小さく、逆に少ない学校では大きくなりますので、それぞれ最小値と最大値を比較すると、小学校では約5倍、中学校では約6倍の開きがあります。同じ1人の子供に対して、一方では年間１００万円を使い、他方では２０万円以下であるという状況です。

限られた財源を有効に、かつ、サービスの受け手である子供に対して同じように使うべきという効率性及び公平性の視点からは、子供１人当たりのコストが高くなる傾向のある小規模校に関し、有効な方法（統廃合など）について議論する必要があります。

（前頁※8）ただし、施設・備品（モノ）は市、教員（ヒト）は県という一種の二重性が管理上の制約となる場合もあります。

（※9）京都市立京都御池（おいけ）中学校（中学校、保育所、老人福祉施設、民間店舗の複合施設。地上７階・地下１階建て）や市川市立第七中学校（中学校、文化ホール、保育所、ケアハウス、老人デイサービスセンターの複合施設。地上５階建て）の事例などがあります。

（※10）私立小中学校との関係については、ここでは立ち入りません。

【図表2-1-7 A】利用者（在籍の児童生徒）又は市民の１人当たりコスト（負担状況）（小学校）　　単位：円

No.	名称	利用者（在籍の児童生徒）１人当たり年間の市のコスト					利用者負担額が市のコストに占める割合 Ⓐ/Ⓔ	市民１人当たり年間コスト（負担額）				備考
		利用者負担額 Ⓐ	維持管理運営費 Ⓑ	減価償却費 Ⓒ	その他経常収入 Ⓓ	合計 Ⓔ=Ⓑ+Ⓒ−Ⓓ		維持管理運営費 Ⓕ	減価償却費 Ⓖ	経常収入 Ⓗ	合計 Ⓕ+Ⓖ−Ⓗ	
①	熊谷東小学校	0	50,896	122,837	22	173,711	0.0%	158	380	0	538	
②	熊谷西小学校	0	49,363	145,842	22	195,183	0.0%	153	452	0	605	
③	石原小学校	0	45,153	115,765	21	160,897	0.0%	152	389	0	541	
④	成田小学校	0	60,681	141,998	317	202,362	0.0%	151	353	1	503	
⑤	大幡小学校	0	52,404	122,597	22	174,979	0.0%	164	383	0	547	
⑥	佐谷田小学校	0	74,464	168,993	46	243,411	0.0%	113	256	0	369	
⑦	大麻生小学校	0	57,234	118,609	37	175,806	0.0%	107	221	0	328	
⑧	玉井小学校	0	50,782	134,119	27	184,874	0.0%	131	345	0	476	
⑨	久下小学校	0	71,655	209,740	50	281,345	0.0%	100	292	0	392	
⑩	熊谷南小学校	0	60,171	168,206	41	228,336	0.0%	101	283	0	384	
⑪	中条小学校	0	104,225	234,145	70	338,300	0.0%	103	232	0	335	
⑫	吉岡小学校	0	69,139	195,503	48	264,594	0.0%	101	285	0	386	
⑬	別府小学校	0	64,814	196,209	41	260,982	0.0%	109	330	0	439	
⑭	三尻小学校	0	52,447	118,124	33	170,538	0.0%	111	250	0	361	
⑮	奈良小学校	0	63,590	132,249	40	195,799	0.0%	112	232	0	344	
⑯	星宮小学校	0	241,646	451,456	177	692,925	0.0%	95	177	0	272	
⑰	桜木小学校	0	92,488	180,662	70	273,080	0.0%	92	180	0	272	
⑱	籠原小学校	0	47,074	91,535	19	138,590	0.0%	167	326	0	493	
⑲	新堀小学校	0	76,933	150,697	47	227,583	0.0%	114	224	0	338	
⑳	吉見小学校	0	63,034	141,094	40	204,088	0.0%	109	245	0	354	
㉑	市田小学校	0	110,584	225,827	76	336,335	0.0%	101	207	0	308	
㉒	長井小学校	0	64,195	149,416	38	213,573	0.0%	118	274	0	392	
㉓	秦小学校	0	161,444	299,206	111	460,539	0.0%	101	187	0	288	
㉔	妻沼小学校	0	85,191	164,211	39	249,363	0.0%	152	294	0	446	
㉕	男沼小学校	0	234,247	350,827	173	584,901	0.0%	94	141	0	235	
㉖	小島小中学校							7	123	0	130	
㉗	太田小学校	0	123,744	246,963	88	370,619	0.0%	98	196	0	294	
㉘	妻沼南小学校	0	172,898	431,915	119	604,694	0.0%	101	253	0	354	
㉙	江南南小学校	0	67,861	176,087	43	243,905	0.0%	109	282	0	391	
㉚	江南北小学校	0	88,995	248,060	64	336,991	0.0%	96	268	0	364	
	全体	0	68,400	161,224	56	229,568	0.0%	3,419	8,059	3	11,475	

＊　計算に用いた利用者数は2014年5月1日現在、収支は2014年度の実績値です。

【図表2-1-7 B】利用者（在籍の児童生徒）又は市民の１人当たりコスト（負担状況）（中学校）　　単位：円

No.	名称	利用者（在籍の児童生徒）１人当たり年間の市のコスト					利用者負担額が市のコストに占める割合 Ⓐ/Ⓔ	市民１人当たり年間コスト（負担額）				備考
		利用者負担額 Ⓐ	維持管理運営費 Ⓑ	減価償却費 Ⓒ	その他経常収入 Ⓓ	合計 Ⓔ=Ⓑ+Ⓒ−Ⓓ		維持管理運営費 Ⓕ	減価償却費 Ⓖ	経常収入 Ⓗ	合計 Ⓕ+Ⓖ−Ⓗ	
❶	荒川中学校	0	95,404	246,000	2,199	339,205	0.0%	173	446	4	615	
❷	富士見中学校	0	51,474	109,521	984	160,011	0.0%	209	444	4	649	
❸	大原中学校	0	105,987	241,997	2,639	345,345	0.0%	160	366	4	522	
❹	熊谷東中学校	0	77,828	165,889	1,626	242,091	0.0%	191	407	4	594	
❺	玉井中学校	0	89,686	180,049	1,885	267,850	0.0%	190	381	4	567	
❻	大麻生中学校	0	138,128	308,191	4,282	442,037	0.0%	129	287	4	412	
❼	中条中学校	0	300,725	713,846	8,846	1,005,725	0.0%	136	322	4	454	
❽	吉岡中学校	0	171,279	437,395	5,476	603,198	0.0%	125	319	4	440	
❾	別府中学校	0	148,450	376,444	4,708	520,186	0.0%	126	319	4	441	
❿	三尻中学校	0	56,690	119,245	1,378	174,557	0.0%	164	345	4	505	
⓫	奈良中学校	0	171,859	396,538	5,160	563,237	0.0%	133	307	4	436	
⓬	大幡中学校	0	87,147	207,703	2,462	292,388	0.0%	141	337	4	474	
⓭	大里中学校	0	100,791	168,295	2,896	266,190	0.0%	139	232	4	367	
⓮	妻沼東中学校	0	90,305	168,189	1,930	256,564	0.0%	187	348	4	531	
⓯	妻沼西中学校	0	110,448	265,085	3,108	372,425	0.0%	142	340	4	478	
⓰	江南中学校	0	88,533	240,187	2,900	325,820	0.0%	141	382	5	518	
	全体	0	93,679	210,485	2,431	301,733	0.0%	2,484	5,581	64	8,001	

＊　計算に用いた利用者数は2014年5月1日現在、収支は2014年度の実績値です。

８　合併等に伴う整理統合の状況

合併後、小中学校の整理統合は、実施されていません。

合併前の区域ごとに児童生徒数と小中学校の設置数を比較したものが、図表２-1-８Ａです。

小学校１校当たりの児童数は、全体では３３６人であり、旧3町はいずれもこの人数を下回っていますが、特に旧妻沼地区では１校当たり１９４人であり、旧熊谷地区の３９８人と比べると半分以下です。旧妻沼地区は、児童数に対して小学校の数が多いということがいえます。

一方、中学校１校当たりの生徒数は、全体では３２５人であり、合併前の区域ごとにみても２９８～３３１人に収まっており、小学校ほどの格差はありません。ただし、これはあく

【図表2-1-8 A】合併前の区域での比較（小中学校）

合併前の区域	小学校			中学校			備考
	児童数（人） ⓐ	学校数（校） ⓑ	1校当たり児童数（人/校） ⓐ/ⓑ	生徒数（人） ⓒ	学校数（校） ⓓ	1校当たり生徒数（人/校） ⓒ/ⓓ	
旧熊谷	7,553	19	398	3,972	12	331	
旧大里	504	2	252	298	1	298	
旧妻沼	1,163	6	194	630	2	315	
旧江南	524	2	262	307	1	307	
合計（全体）	9,744	29	336	5,207	16	325	

＊1　児童総数等の基準日は、2016（平成28）年5月現在です。
＊2　休校中の小島小中学校（妻沼地区）を除きます。

までも平均値ですので、個々の学校間で大きく異なっていることは、既に「３　児童生徒数と学級数の現状」でみたとおりです。

学校の整理統合（施設再配置）については、このような現状を踏まえるとともに、基本計画第２章第１節６の施設再配置の実施基準における５つのエリア分けの趣旨も参考に、今後の姿を検討すべきです。

なお、参考として、本市の小中学校の歴史・沿革についてここで簡単に紹介します。

小学校の多くは明治時代以来の歴史を有していますが、中学校の多くは戦後の学制改革により開校されたものです。また、第二次ベビーブーム等による児童生徒の急増に対応するため、分離・開校（新設）された学校もあります。図表 2-1-8Ｂにいくつかの例を挙げましたが、それぞれの学校が独自の歴史・沿革を有することが分かるのと同時に、学校の統廃合や再編、移転等は現代的な課題であるとは限らず、過去においても、意外とダイナミックな動きがあったことが分かります。

【図表2-1-8 B】小中学校の沿革の例

学校名	年（西暦）	年月日（元号）	事柄
奈良小学校	1873	M6.5.1	上奈良村ほか13村をもって奈良学校を開校
		M6.11	上奈良村が奈良学校より分離し、玉井村と共に上奈良小学校を開校
	1884	M17.8	上奈良、中奈良、下奈良、奈良新田、四方寺、柿沼6か村連合にて奈良学校を編成
	1886	M19.4.1	小学校令改正により奈良尋常小学校と改称
	1909	M42.2.2	現在地に校舎を新築・移転し、奈良尋常高等小学校と改称
	1940	S16.4.1	奈良国民学校と改称
	1947	S22.4.1	学制改革により奈良村立奈良小学校と改称
	1954	S29.11.3	熊谷市と合併し、熊谷市立奈良小学校と改称
熊谷東中学校	1947	S22.4.1	本校を佐谷田小学校に、分校を成田・久下の各小学校におき、桜田中学校が開校
	1948	S23.12.26	旧理研青年学校校舎に移転。分校を廃止
	1961	S36.4.1	星宮中学校を統合し、熊谷東中学校と改称
	1963	S38.4.9	現在地に校舎を新築・移転
桜木小学校	1970	S45.4.1	熊谷東小学校の一部に桜木小学校を開校
		S45.11.24	現在地に校舎を新築・移転

※「熊谷市史　通史編」ほかを参考に、主に統廃合・再編、移転、改称等の事柄を記載

９　耐震化及び老朽化対策の状況

耐震化については、小中学校の校舎本体は全て対応済みです。学校体育館については、詳細データは本章第２節に掲載していますが、2017（平成 29）年度末までに全て耐震化がなされる予定です。

一方で、老朽化対策については、待ったなしの状況といえます。

2015（平成 27）年度末時点で築 40 年以上である校舎は３１棟（小学校２１棟、中学校１０棟）、うち築 45 年以上であるものは２０棟（小学校１１棟、中学校９棟）もあり、老朽化が顕著な状況です。

続く、2016 年度末時点でみると、築 40 年以上である校舎は３２棟（小学校２２棟、中学校１０棟）で１棟増、うち築 45 年以上であるものは２３棟（小学校１４棟、中学校９棟）で3棟増というように年々増加しつつあります。

１０　学校の適正規模について

学校の適正規模については、国（文部科学省）が示す標準（学校教育法施行規則第 41 条）が参考となります。小学校の学級数については「十二学級以上十八学級以下を標準」とされ、中学校も同様です（同施行規則第 79 条による準用）。義務教育諸学校等の施設費の国庫負担等に関する法律第３条を受けた同法施行令第４条第１項第１号には、学級数に関する同内容の条件に加え、通学距離の条件に関する規定もあります。参考に該当部分の抜粋を掲載します。

〇義務教育諸学校等の施設費の国庫負担等に関する法律施行令（抜粋。原文縦書き）

（適正な学校規模の条件）

第四条　法第三条第一項第四号の適正な規模の条件は、次に掲げるものとする。

一　学級数が、小学校及び中学校にあつてはおおむね十二学級から十八学級まで、義務教育学校にあつてはおおむね十八学級から二十七学級までであること。

二　通学距離が、小学校にあつてはおおむね四キロメートル以内、中学校及び義務教育学校にあつてはおおむね六キロメートル以内であること。

学級数については、小学校と中学校に同じ標準・条件が適用されており、いずれの場合も、おおむね１２～１８学級とされています。よって、国の考え方では、６学年の小学校においては各学年２～３学級が、３学年の中学校においては各学年４～６学級が「適正な規模」と判断していることが分かります。

次頁の図表 2-1-10 Ａは、上記の標準に満たないと判定される学校の学級数を黄色に着色して示したものです（人数は、各校の児童生徒の総数です。）。

なお、この後で示す将来予測との関係上、国勢調査の基準年である 2015 年度における状況を基にしています。

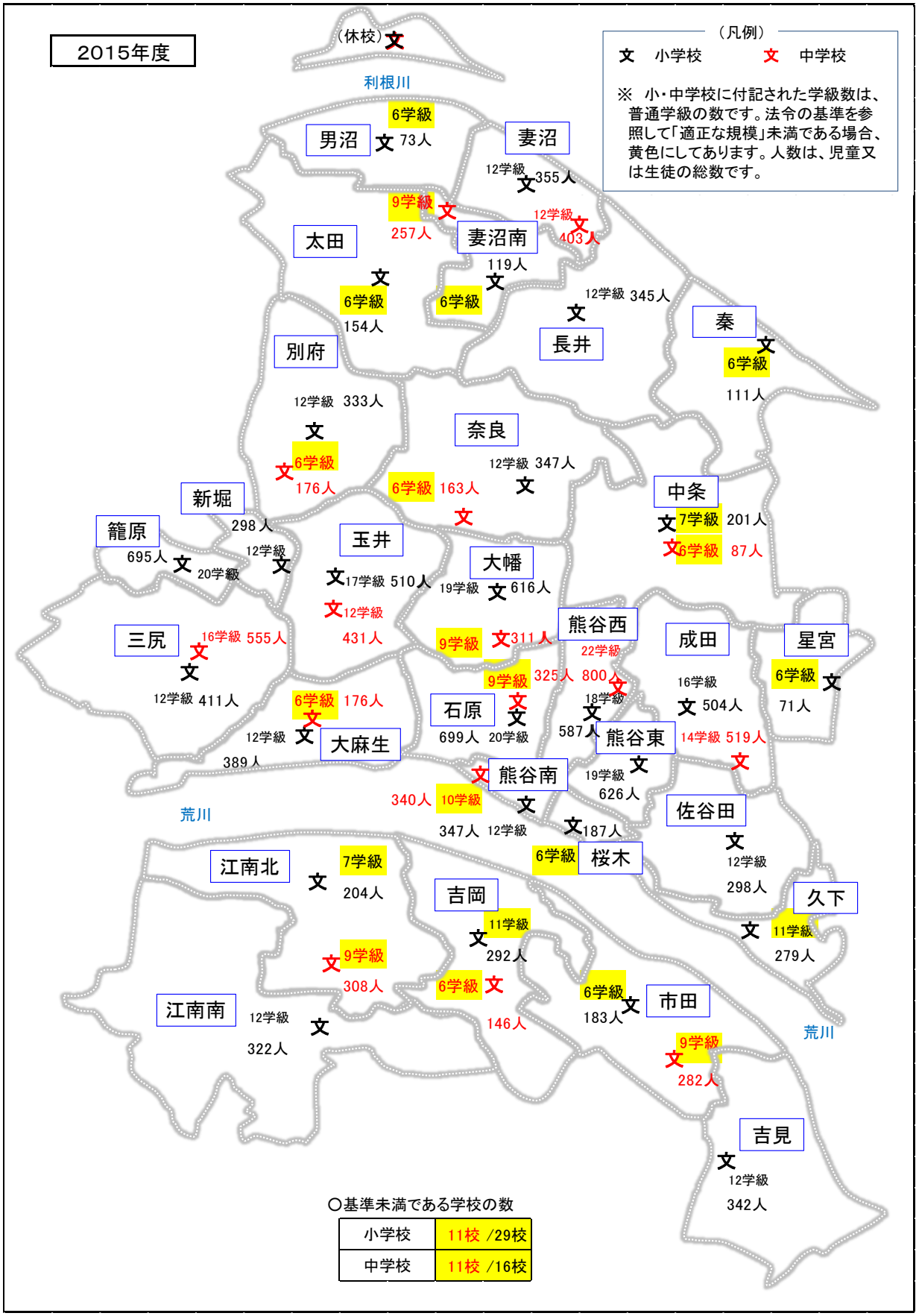
また、次々頁以降には、国立社会保障・人口問題研究所の将来人口推計を参考として、2025、2035、2045、2055 の各年度における将来予測を掲載しています（図表 2-1-10Ｂ ～ Ｅ）。

Ａの図にあるように、２９小学校中１１校、１６中学校中１１校が国の示す標準を下回っているとの結果となります。

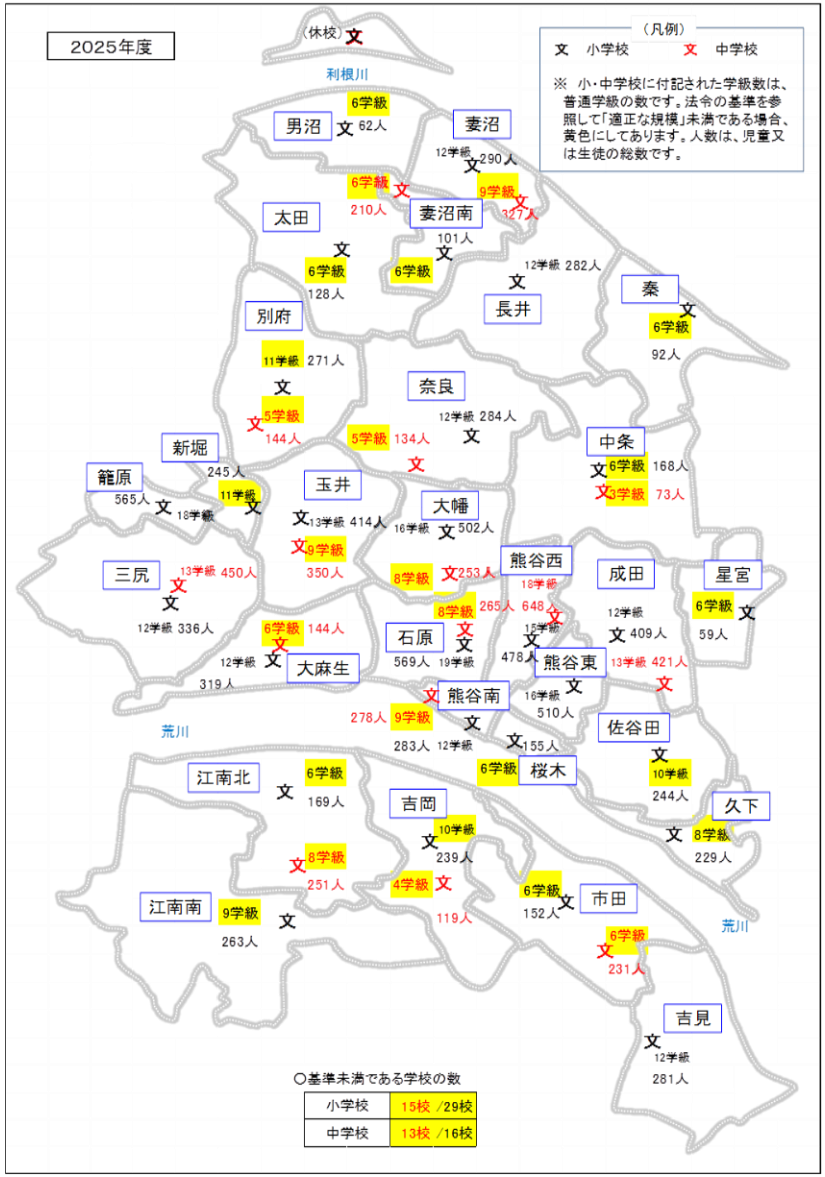
Ｂ ～ Ｅの図表をみると、１０年後（基本計画の策定時点からは約８年後）の 2025 年度には、２９小学校中１５校、１６中学校中１３校が「適正な規模」を下回る見込みです。また、その後（2035 年度～）の状況（推計）は、図表に示したとおりです。

国の標準をそのまま適用するとこのような状況ですが、国の標準未満であるからといって直ちに統廃合をしなければならないわけではありませんし、小規模校ならではの「良さ」もありますが、今後の少子化の一層の進行を踏まえると、将来に向けた検討に着手することが必要です。また、学校の統廃合は、市の財政上・業務上の負担が大きいのはもちろんのこと、児童生徒の学校生活への影響を極力小さくするための課題と作業も色々とあり、そのような性格の事業を一度にまとめて実施することは事実上も不可能であるため、住民と共に考えながら、時間をかけて計画的に行っていく必要があります。

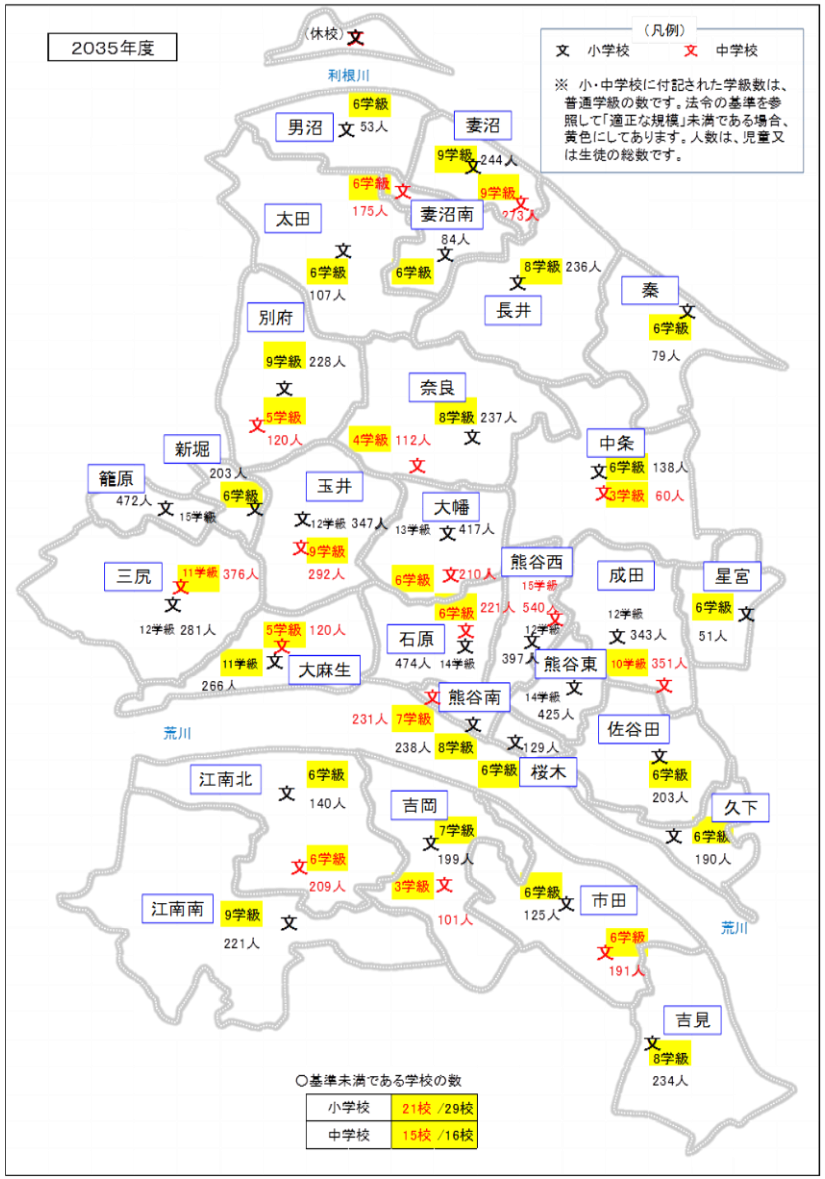
【図表2-1-10 A】熊谷市立小中学校の配置と普通学級数（2015年度）



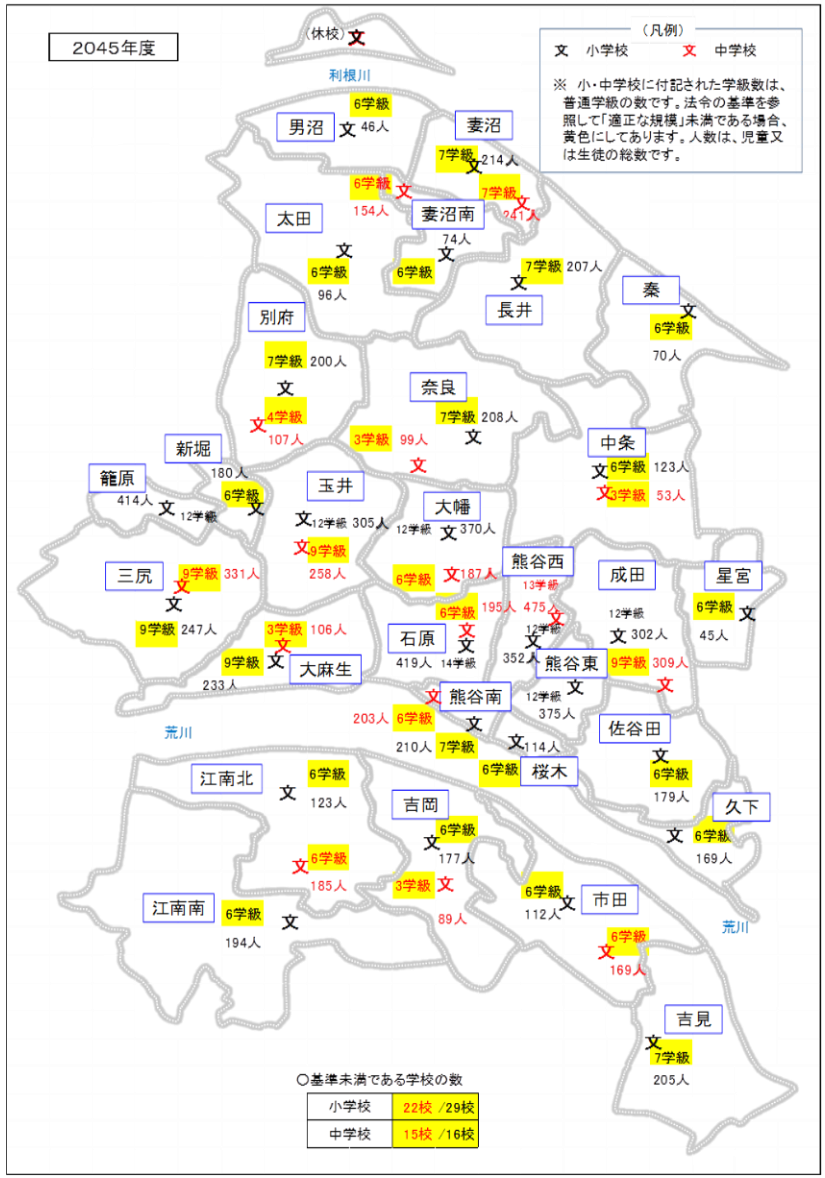
【図表2-1-10 B】熊谷市立小中学校の配置と普通学級数（推計・2025年度）



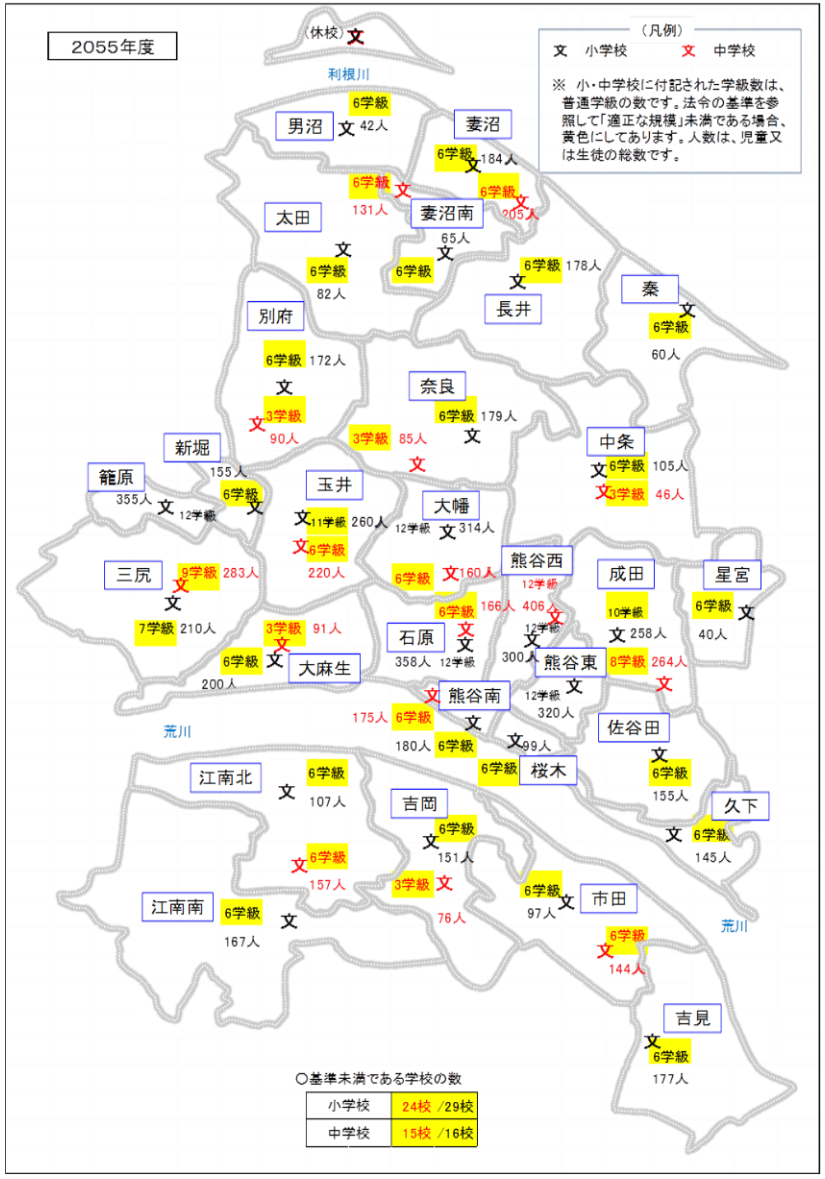
【図表2-1-10 C】熊谷市立小中学校の配置と普通学級数（推計・2035年度）



【図表2-1-10 D】熊谷市立小中学校の配置と普通学級数（推計・2045年度）



【図表2-1-10 E】熊谷市立小中学校の配置と普通学級数（推計・2055年度）



第2節　学校体育館

本節では小中学校の体育館を取り扱いますが、学校施設全体については、既に前節において言及済みであるため、ここでは施設の紹介を中心に簡単に触れるのみとします。

1　施設概要

学校体育館の施設概要は、図表 2-2-1 A 及び B（次頁）のとおりです。

2017（平成 29）年度を目途として耐震化を主目的とした改築を実施してきたため、多くの学校で新しい施設への更新が進んでいます。

【図表2-2-1 A】施設概要（小学校体育館）1/2　　2016年3月31日現在

No.	名称	建築年度	延床面積（㎡）	耐用年限	修繕時期	耐震性能	補助金	備考
①	熊谷東小学校体育館	2011	1,248.87	2071	2041	○	△	
②	熊谷西小学校体育館	2013	1,304.88	2073	2043	○	△	
③	石原小学校体育館	2009	1,271.19	2059	2034	○	△	
④	成田小学校体育館	1984	844.50	2034	2009	○		
⑤	大幡小学校体育館	1982	779.90	2042	2012	○		特別教室棟と兼用。左の延床面積は体育館部分のみ
⑥	佐谷田小学校体育館	2013	1,261.70	2073	2043	○	△	
⑦	大麻生小学校体育館	1988	1,118.73	2048	2018	○		
⑧	玉井小学校体育館	1974	823.37	2024	1999	×		1995年度大規模修繕済。2016年度新体育館建築前のデータ
⑨	久下小学校体育館	2014	1,126.93	2074	2044	○	△	
⑩	熊谷南小学校体育館	2012	1,195.89	2072	2042	○	△	
⑪	中条小学校体育館	2010	1,144.12	2070	2040	○	△	
⑫	吉岡小学校体育館	2015	1,282.90	2075	2045	○	△	
⑬	別府小学校体育館	1986	994.66	2046	2016	○		
⑭	三尻小学校体育館	2012	1,216.71	2072	2042	○	△	
⑮	奈良小学校体育館	2014	1,248.62	2074	2044	○	△	
⑯	星宮小学校体育館	2014	807.39	2074	2044	○	△	
⑰	桜木小学校体育館	2013	1,228.19	2073	2043	○	△	
⑱	籠原小学校体育館	2012	1,201.73	2072	2042	○	△	
⑲	新堀小学校体育館	1980	824.96	2030	2005	×		2017年度新体育館建築予定
⑳	吉見小学校体育館	1978	1,158.73	2028	2003	○		
㉑	市田小学校体育館	1981	793.16	2031	2006	○		
㉒	長井小学校体育館	1985	902.11	2035	2010	○		
㉓	秦小学校体育館	1972	404.40	2022	1997	×		2017年度新体育館建築予定
㉔	妻沼小学校体育館	2015	1,285.42	2075	2045	○	△	
㉕	男沼小学校体育館	1972	434.92	2022	1997	×		2016年度新体育館建築前のデータ
㉖	小島小中学校体育館	1999	594.37	2049	2024	○		休校中
㉗	太田小学校体育館	1982	698.10	2032	2007	○		

【図表2-2-1 A】施設概要（小学校体育館）2/2　　2016年3月31日現在

No.	名称	建築年度	延床面積（㎡）	耐用年限	修繕時期	耐震性能	補助金	備考
㉘	妻沼南小学校体育館	1994	1,117.64	2054	2024	○		
㉙	江南南小学校体育館	2002	977.60	2052	2027	○		
㉚	江南北小学校体育館	2007	1,006.37	2057	2032	○		
	合計		30,298.06					

＊　⑧及び㉕に関しては、2016年度の改築事業完了後のデータは、次のとおりです。　　2017年3月31日現在

No.	名称	建築年度	延床面積（㎡）	耐用年限	修繕時期	耐震性能	補助金	同時に整備（更新）した建築物等
⑧	玉井小学校体育館	2016	1,258.00	2076	2046	○	△	物置（15.34㎡）
㉕	男沼小学校体育館	2016	882.50	2076	2046	○	△	渡り廊下（34.71㎡）、消火栓ﾎﾟﾝﾌﾟ室（2.06㎡）、自転車置場（8.97㎡）

【図表2-2-1 B】施設概要（中学校体育館）　　2016年3月31日現在

No.	名称		建築年度	延床面積（㎡）	耐用年限	修繕時期	耐震性能	補助金	備考
❶	荒川中学校体育館		1988	2,391.87	2048	2018	○		
❷	富士見中学校体育館		1982	2,085.65	2042	2012	○		
❸	大原中学校体育館		1994	2,349.54	2054	2024	○		
❹	熊谷東中学校体育館		1991	2,488.87	2051	2021	○		
❺	玉井中学校体育館		1990	2,320.08	2050	2020	○		
❻	大麻生中学校体育館		2008	1,965.34	2068	2038	○	△	
❼	中条中学校体育館		2011	1,962.64	2071	2041	○	△	
❽	吉岡中学校体育館		2011	1,927.06	2071	2041	○	△	
❾	別府中学校体育館		2009	1,852.65	2069	2039	○	△	
❿	三尻中学校体育館		1989	2,257.44	2049	2019	○		
⓫	奈良中学校体育館		2007	1,611.39	2057	2032	○		
⓬	大幡中学校体育館		1983	2,126.79	2043	2013	○		2006年度大規模修繕済
⓭	大里中学校体育館		2015	1,987.29	2075	2045	○	△	
⓮	妻沼東中学校体育館		1995	2,539.75	2055	2025	○		
⓯	妻沼西中学校体育館		1995	2,539.75	2055	2025	○		
⓰	江南中学校	体育館	2003	1,478.15	2053	2028	○		
		柔道場	1995	371.31	2045	2020	○		
	合計			34,255.57					

2　配置状況

各施設の配置状況については、前節の図表 2-1-2 を参照してください。

3　利用状況

各施設は、学校での授業で利用されるほか、夜間や休日には、地域住民のために開放されています。学校施設の複合化・地域拠点施設化が進められた場合、施設開放から更に一歩進んだ施設の共同利用の形態に移行するものと考えられます（基本計画第3章参照）。

4　コスト状況

減価償却費以外のコストについては、体育館単独でのコスト集計は難しいため、前節の図表 2-1-4 A 及び B で、体育館の分も含めた学校施設全体のコストを集計しています。図表 2-2-4 A 及び B では、参考として、体育館に係る減価償却費のみを再掲します（図表 2-1-4 A 及び B の減価償却費に含まれる額です。）。

【図表2-2-4 A】コスト状況（小学校体育館）　単位：千円

No.	名称	減価償却費	備考（管理方法等）
①	熊谷東小学校体育館	10,407	
②	熊谷西小学校体育館	10,874	
③	石原小学校体育館	12,712	
④	成田小学校体育館	8,445	
⑤	大幡小学校体育館	6,499	
⑥	佐谷田小学校体育館	10,514	
⑦	大麻生小学校体育館	9,323	
⑧	玉井小学校体育館	8,234	
⑨	久下小学校体育館	9,391	
⑩	熊谷南小学校体育館	9,966	
⑪	中条小学校体育館	9,534	
⑫	吉岡小学校体育館	10,691	
⑬	別府小学校体育館	8,289	
⑭	三尻小学校体育館	10,139	
⑮	奈良小学校体育館	10,405	
⑯	星宮小学校体育館	6,728	
⑰	桜木小学校体育館	10,808	
⑱	籠原小学校体育館	10,014	
⑲	新堀小学校体育館	8,250	
⑳	吉見小学校体育館	11,587	
㉑	市田小学校体育館	7,932	
㉒	長井小学校体育館	9,021	
㉓	秦小学校体育館	4,044	
㉔	妻沼小学校体育館	10,712	
㉕	男沼小学校体育館	4,349	
㉖	小島小学校体育館	5,944	
㉗	太田小学校体育館	6,981	
㉘	妻沼南小学校体育館	9,314	
㉙	江南南小学校体育館	9,776	
㉚	江南北小学校体育館	10,064	
	合計	270,947	

【図表2-2-4 B】コスト状況（中学校体育館）　単位：千円

No.	名称	減価償却費	備考（管理方法等）
❶	荒川中学校体育館	19,932	
❷	富士見中学校体育館	17,380	
❸	大原中学校体育館	19,580	
❹	熊谷東中学校体育館	20,741	
❺	玉井中学校体育館	19,334	
❻	大麻生中学校体育館	16,378	
❼	中条中学校体育館	16,355	
❽	吉岡中学校体育館	16,059	
❾	別府中学校体育館	15,439	
❿	三尻中学校体育館	18,812	
⓫	奈良中学校体育館	16,114	
⓬	大幡中学校体育館	17,723	
⓭	大里中学校体育館	16,561	
⓮	妻沼東中学校体育館	21,165	
⓯	妻沼西中学校体育館	21,165	
⓰	江南中学校体育館	18,495	柔道場を含む。
	合計	291,233	

「5　災害時の役割」から「9　耐震化及び老朽化対策の状況」までについては、前節において、学校施設全体の視点から必要に応じ言及しています。詳しくは、該当部分を御参照ください。

第３節　学校プール

小中学校のプールは、主に夏季の体育の授業等において利用される施設です。水泳の授業では、水に慣れ親しむことや水に浮く・泳ぐなどの経験を十分に行うことを目的としており、海のない埼玉県内の児童生徒にとっては、水に触れるという貴重な体験ができる施設であるといえます。

しかし一方で、特殊な設備もあることから、その維持には多額の費用がかかるとともに、使用期間も夏季の一時期に限定されるため、費用対効果の面からは高コストな施設であるといえます。

１　施設概要

本市が保有する学校プールの概要は、図表２-３-１Ａ及びＢ（次頁）のとおりです（※１）。

どのプールも建築から数十年が経過しており、最も古いものでは５０年以上が経過しているものもあります。また、中学校では水泳の授業時間が少ないこと等から、他校のプールを借用して水泳の授業を行っている学校もあります。

【図表2-3-1 A】施設概要（小学校プール）1/2　　2016年3月31日現在

No.	名称	建築年度	水面積（㎡）	耐用年限	修繕時期	耐震性能	補助金	備考
①	熊谷東小学校プール	1978	408.20	2038	2008	－		
②	熊谷西小学校プール	1981	429.00	2041	2011	－		
③	石原小学校プール	1986	429.00	2046	2016	－		
④	成田小学校プール	1985	429.00	2045	2015	－		
⑤	大幡小学校プール	1993	429.00	2053	2023	－		
⑥	佐谷田小学校プール	1977	409.50	2037	2007	－		
⑦	大麻生小学校プール	1992	416.00	2052	2022	－		
⑧	玉井小学校プール	1989	429.00	2049	2019	－		
⑨	久下小学校プール	1996	429.00	2056	2026	－		
⑩	熊谷南小学校プール	1988	429.00	2048	2018	－		
⑪	中条小学校プール	1964	325.00	2024	1994	－		2006年度大規模修繕済
⑫	吉岡小学校プール	1990	429.00	2050	2020	－		
⑬	別府小学校プール	1987	429.00	2047	2017	－		
⑭	三尻小学校プール	1987	429.00	2047	2017	－		
⑮	奈良小学校プール	1991	429.00	2051	2021	－		
⑯	星宮小学校プール	1989	395.00	2049	2019	－		
⑰	桜木小学校プール	1970	187.50	2030	2000	－		管理教室棟屋上（校舎との一体型）。2007年度大規模修繕済
⑱	籠原小学校プール	1974	429.00	2034	2004	－		
⑲	新堀小学校プール	1980	429.00	2040	2010	－		
⑳	吉見小学校プール	1998	385.00	2058	2028	－		

（※１）学校プールについては、延床面積ではなく水面積（水面部分の面積）を掲載しています。ただし、図表２-３-４Ａなどの減価償却費の計算では、延床面積（推計値）を基に計算しています。

【図表2-3-1 A】施設概要（小学校プール）2/2

2016年3月31日現在

No.	名称	建築年度	水面積（㎡）	耐用年限	修繕時期	耐震性能	補助金	備考
㉑	市田小学校プール	1996	385.00	2056	2026	―		
㉒	長井小学校プール	1986	400.00	2046	2016	―		
㉓	秦小学校プール	1997	335.00	2057	2027	―		
㉔	妻沼小学校プール	1988	500.00	2048	2018	―		
㉕	男沼小学校プール	1997	340.00	2057	2027	―		
㉖	小島小中学校プール	1992	250.00	2052	2022	―		
㉗	太田小学校プール	1998	363.00	2058	2028	―		
㉘	妻沼南小学校プール	1994	385.00	2054	2024	―		
㉙	江南南小学校プール	1992	359.00	2052	2022	―		
㉚	江南北小学校プール	1991	359.00	2051	2021	―		
	合計		11,779.20					

【図表2-3-1 B】施設概要（中学校プール）

2016年3月31日現在

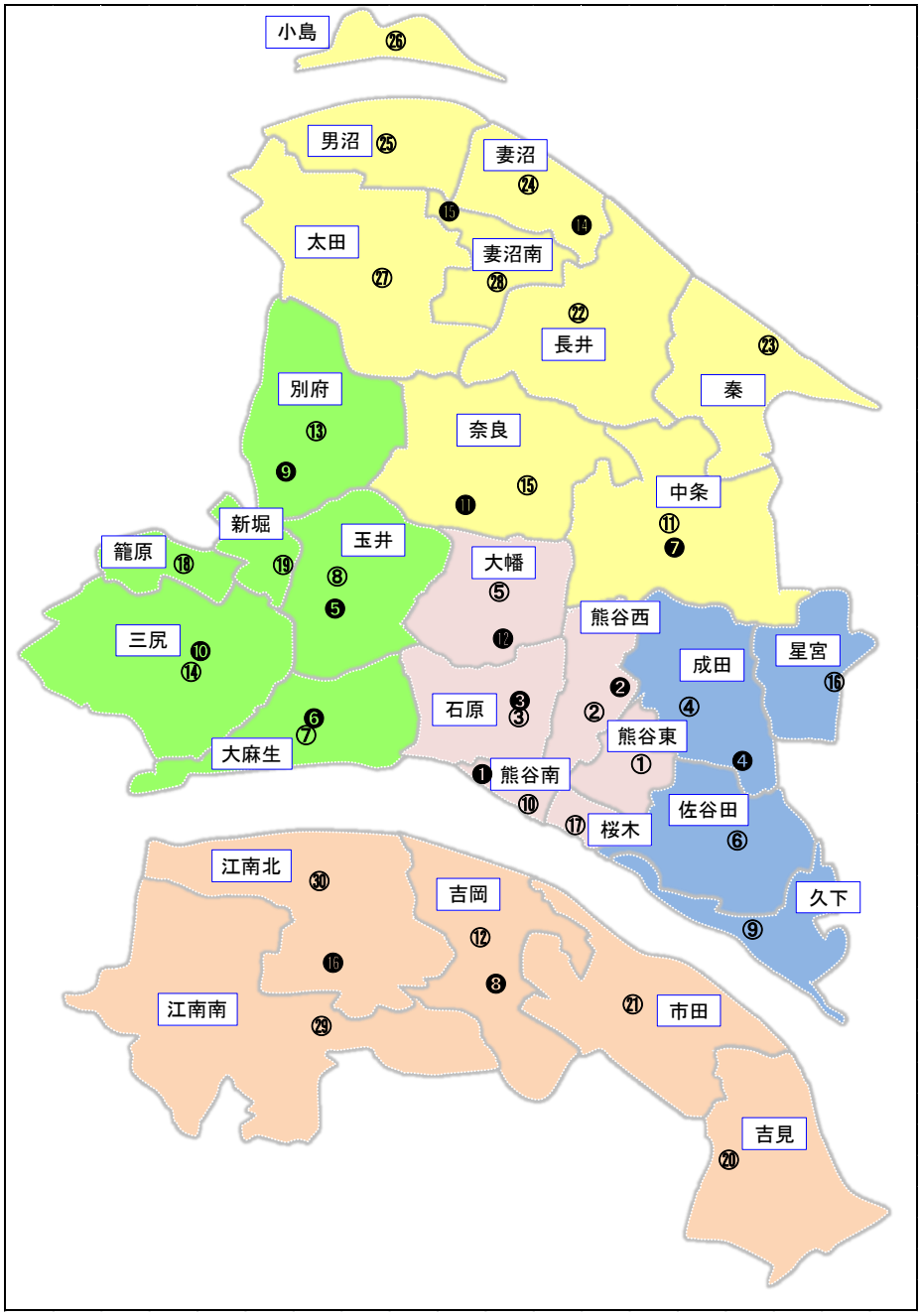
No.	名称	建築年度	水面積（㎡）	耐用年限	修繕時期	耐震性能	補助金	備考
❶	荒川中学校プール	1965	325.00	2025	1995	―		
❷	富士見中学校プール	1982	425.00	2042	2012	―		
❸	大原中学校プール	1995	425.00	2055	2025	―		
❹	熊谷東中学校プール	1966	325.00	2026	1996	―		
❺	玉井中学校プール	1970	325.00	2030	2000	―		使用不可状態。玉井小学校のﾌﾟｰﾙを借用
❻	大麻生中学校プール	1984	325.00	2044	2014	―		
❼	中条中学校プール	1973	325.00	2033	2003	―		
❽	吉岡中学校プール	1974	325.00	2034	2004	―		
❾	別府中学校プール	1973	325.00	2033	2003	―		
❿	三尻中学校プール	1972	325.00	2032	2002	―		
⓫	奈良中学校プール	1972	325.00	2032	2002	―		
⓬	大幡中学校プール	1983	425.00	2043	2013	―		
⓭	大里中学校プール							2015年度除却
⓮	妻沼東中学校プール	1970	375.00	2030	2000	―		
⓯	妻沼西中学校プール	1972	375.00	2032	2002	―		
⓰	江南中学校プール	1995	375.00	2055	2025	―		
	合計		5,325.00					

2　配置状況

学校プールの配置状況は、図表 2-3-2 のとおりです。

各校に 1 つずつの配置ですが、大里中学校は、2015（平成 27）年度の屋内運動場（体育館）建築工事に伴いプールを除却したため、現在はプールがありません。また、玉井中学校は、プール自体はありますが、老朽化により使用できない状態となっています（※2）。

【図表2-3-2】配置状況（学校プール）



3　利用状況

各プールの利用状況は、次頁以降の図表 2-3-3 A 及び B のとおりです。

学校プールは基本的に屋外プールであり、利用は夏季に限定されるため、稼働率はどうしても低くなります。また、児童・生徒が授業等に利用するのみですので、利用者も少ない状況となっています。

（※2）いずれの中学校も近隣の小学校のプールを借用することで対応していますが、中学校のカリキュラムでは、体育における水泳の授業時間数は小学校ほど多くはないため、大きな支障もなく対応できています。

【図表2-3-3 A】利用状況（小学校プール）

No.	名称	年間開館日数（日）ⓐ	年間利用者数（人）ⓑ	開館1日当たり利用者数（人/日）ⓑ／ⓐ	開館率	備考（諸室、設備等）
①	熊谷東小学校プール	38	6,250	164	10.4%	附属室
②	熊谷西小学校プール	38	6,250	164	10.4%	〃
③	石原小学校プール	38	6,780	178	10.4%	便所更衣室、倉庫
④	成田小学校プール	38	5,010	132	10.4%	附属室
⑤	大幡小学校プール	38	6,310	166	10.4%	附属室1・2
⑥	佐谷田小学校プール	38	3,060	81	10.4%	浄化槽機械室
⑦	大麻生小学校プール	38	3,760	99	10.4%	便所更衣室、倉庫
⑧	玉井小学校プール	38	5,190	137	10.4%	便所更衣室
⑨	久下小学校プール	38	2,810	74	10.4%	附属室
⑩	熊谷南小学校プール	38	3,400	89	10.4%	便所更衣室、倉庫
⑪	中条小学校プール	38	2,000	53	10.4%	
⑫	吉岡小学校プール	38	2,940	77	10.4%	附属室
⑬	別府小学校プール	38	3,390	89	10.4%	〃
⑭	三尻小学校プール	38	4,270	112	10.4%	〃
⑮	奈良小学校プール	38	3,540	93	10.4%	便所更衣室、倉庫
⑯	星宮小学校プール	38	790	21	10.4%	〃
⑰	桜木小学校プール	38	2,010	53	10.4%	
⑱	籠原小学校プール	38	7,180	189	10.4%	附属室
⑲	新堀小学校プール	38	3,000	79	10.4%	便所更衣室
⑳	吉見小学校プール	38	3,500	92	10.4%	〃
㉑	市田小学校プール	38	1,850	49	10.4%	附属室
㉒	長井小学校プール	38	3,700	97	10.4%	〃
㉓	秦小学校プール	38	1,260	33	10.4%	〃
㉔	妻沼小学校プール	38	3,610	95	10.4%	〃
㉕	男沼小学校プール	38	810	21	10.4%	〃
㉖	小島小中学校プール	0	0	0	0.0%	〃
㉗	太田小学校プール	38	1,600	42	10.4%	〃
㉘	妻沼南小学校プール	38	1,180	31	10.4%	〃
㉙	江南南小学校プール	38	3,230	85	10.4%	〃
㉚	江南北小学校プール	38	2,180	57	10.4%	〃
	合計（全体）		100,860	2,652	10.2%	

＊　年間利用者数等は、2014年度の実績値（概算）です。また、利用者数は在籍者数ではなく、延べ人数です。

【図表2-3-3 B】利用状況（中学校プール）

No.	名称	年間開館日数（日）ⓐ	年間利用者数（人）ⓑ	開館1日当たり利用者数（人/日）ⓑ／ⓐ	開館率	備考（諸室、設備等）
❶	荒川中学校プール	38	2,928	77	10.4%	附属室
❷	富士見中学校プール	38	6,544	172	10.4%	
❸	大原中学校プール	38	2,440	64	10.4%	更衣室・便所、附属倉庫
❹	熊谷東中学校プール	38	3,960	104	10.4%	附属室
❺	玉井中学校プール	38	3,416	90	10.4%	〃
❻	大麻生中学校プール	38	1,504	40	10.4%	
❼	中条中学校プール	38	728	19	10.4%	附属室
❽	吉岡中学校プール	38	1,176	31	10.4%	〃
❾	別府中学校プール	38	1,368	36	10.4%	
❿	三尻中学校プール	38	4,672	123	10.4%	附属室
⓫	奈良中学校プール	38	1,248	33	10.4%	〃
⓬	大幡中学校プール	38	2,616	69	10.4%	機械室
⓭	大里中学校プール	38	2,224	59	10.4%	附属室
⓮	妻沼東中学校プール	38	3,336	88	10.4%	
⓯	妻沼西中学校プール	38	2,072	55	10.4%	附属室
⓰	江南中学校プール	38	2,568	68	10.4%	更衣室・便所
	合計（全体）		42,800	1,128	10.4%	

＊　年間利用者数等は、2014年度の実績値（概算）です。また、利用者数は在籍者数ではなく、延べ人数です。

4　コスト状況

各校のプールのコスト状況は、次頁以降の図表 2-3-4 A 及び B のとおりです

学校プールについても、体育館と同様、単独でのコスト集計は難しいため、本章第１節の図表 2-1-4 A 及び B で、プールの分も含めた学校施設全体のコストを集計しています。そのため、図表 2-3-4 A 及び B では、参考として、プールに係る減価償却費と、集計ができた一部の維持管理運営費分のみを再掲しています（いずれも学校施設全体について集計した図表 2-1-4 A 及び B に含まれる額です。）。比較的参考になるのは、水道料金が計上されているプール（図表 2-3-4 A 及び B の備考欄に「水道料金を含む。」と付記されているもの）であり、小学校で8校、中学校で３校あります。

水道代や点検・修理等のコストが多くかかることから、学校プール全体の年間コストは、小中学校合わせて少なくとも3億円以上となっています。

5　災害時の役割

現在、全ての学校プールは消防水利と位置付けられており、火災が発生した際にはその水が消火活動に使われることになっています（そのため冬でも水が張ってあります。）。

よって、プールを取り壊した場合には、それに代わる防火水槽や防火井戸などが必要となります。１基（１本）当たりの設置費用は、防火水槽で１０００万円程度、防火井戸で２００万円程度です。防火井戸については、その土地の地下水位の状況等により必ずしも設置可能なわけではありませんが、既にプールを除却した大里中学校では、防火井戸を設置しました。

【図表2-3-4 A】コスト状況（小学校プール）

単位：千円

No.	名称	費用（コスト）				収入				正味ｺｽﾄ ⓒ-ⓓ	備考（管理方法等）
		維持管理運営費		減価償却費ⓑ	合計 ⓒ=ⓐ+ⓑ	（経常）			（臨時）		
		（経常）ⓐ	（臨時）			使用料等	その他	合計ⓓ			
①	熊谷東小学校プール	96	0	7,280	7,376	0	0	0	0	7,376	
②	熊谷西小学校プール	96	0	7,072	7,168	0	0	0	0	7,168	
③	石原小学校プール	96	0	7,297	7,393	0	0	0	0	7,393	
④	成田小学校プール	96	0	7,259	7,355	0	0	0	0	7,355	
⑤	大幡小学校プール	96	0	7,370	7,466	0	0	0	0	7,466	
⑥	佐谷田小学校プール	96	0	6,917	7,013	0	0	0	0	7,013	
⑦	大麻生小学校プール	598	0	7,280	7,878	0	0	0	0	7,878	水道料金を含む。
⑧	玉井小学校プール	96	0	7,219	7,315	0	0	0	0	7,315	
⑨	久下小学校プール	96	0	7,280	7,376	0	0	0	0	7,376	
⑩	熊谷南小学校プール	96	0	7,334	7,430	0	0	0	0	7,430	
⑪	中条小学校プール	96	0	6,780	6,876	0	0	0	0	6,876	
⑫	吉岡小学校プール	96	0	7,265	7,361	0	0	0	0	7,361	
⑬	別府小学校プール	96	0	7,280	7,376	0	0	0	0	7,376	
⑭	三尻小学校プール	846	0	7,280	8,126	0	0	0	0	8,126	水道料金を含む。
⑮	奈良小学校プール	96	0	7,442	7,538	0	0	0	0	7,538	
⑯	星宮小学校プール	96	0	7,261	7,357	0	0	0	0	7,357	
⑰	桜木小学校プール	96	0	3,333	3,429	0	0	0	0	3,429	
⑱	籠原小学校プール	96	0	6,879	6,975	0	0	0	0	6,975	
⑲	新堀小学校プール	96	0	7,117	7,213	0	0	0	0	7,213	
⑳	吉見小学校プール	861	33	7,247	8,108	0	0	0	0	8,108	水道料金を含む。
㉑	市田小学校プール	96	0	7,900	7,996	0	0	0	0	7,996	
㉒	長井小学校プール	96	0	3,985	4,081	0	0	0	0	4,081	
㉓	秦小学校プール	430	54	7,505	7,935	0	0	0	0	7,935	水道料金を含む。
㉔	妻沼小学校プール	816	28	5,674	6,490	0	0	0	0	6,490	水道料金を含む。
㉕	男沼小学校プール	363	0	7,505	7,868	0	0	0	0	7,868	水道料金を含む。
㉖	小島小中学校プール	0	0	3,697	3,697	0	0	0	0	3,697	
㉗	太田小学校プール	529	0	7,505	8,034	0	0	0	0	8,034	水道料金を含む。
㉘	妻沼南小学校プール	468	0	7,733	8,201	0	0	0	0	8,201	水道料金を含む。
㉙	江南南小学校プール	96	0	7,419	7,515	0	0	0	0	7,515	
㉚	江南北小学校プール	96	0	7,419	7,515	0	0	0	0	7,515	
	合計	6,927	115	206,534	213,461	0	0	0	0	213,461	

【図表2-3-4 B】コスト状況（中学校プール）　　単位：千円

No.	名称	費用（コスト）				収入				正味コスト ⓒ−ⓓ	備考（管理方法等）
		維持管理運営費		減価償却費ⓑ	合計 ⓒ=ⓐ+ⓑ	（経常）			（臨時）		
		（経常）ⓐ	（臨時）			使用料等	その他	合計ⓓ			
❶	荒川中学校プール	89	0	6,893	6,982	0	0	0	0	6,982	
❷	富士見中学校プール	89	0	6,780	6,869	0	0	0	0	6,869	
❸	大原中学校プール	89	0	7,310	7,399	0	0	0	0	7,399	
❹	熊谷東中学校プール	512	11	6,886	7,398	0	0	0	0	7,398	水道料金を含む。
❺	玉井中学校プール	62	0	6,879	6,941	0	0	0	0	6,941	
❻	大麻生中学校プール	89	0	6,780	6,869	0	0	0	0	6,869	
❼	中条中学校プール	62	0	6,879	6,941	0	0	0	0	6,941	
❽	吉岡中学校プール	89	0	6,890	6,979	0	0	0	0	6,979	
❾	別府中学校プール	89	0	6,780	6,869	0	0	0	0	6,869	
❿	三尻中学校プール	89	0	6,875	6,964	0	0	0	0	6,964	
⓫	奈良中学校プール	89	0	6,863	6,952	0	0	0	0	6,952	
⓬	大幡中学校プール	89	0	6,970	7,059	0	0	0	0	7,059	
⓭	大里中学校プール	62	0	6,780	6,842	0	0	0	0	6,842	
⓮	妻沼東中学校プール	721	0	6,780	7,501	0	0	0	0	7,501	水道料金を含む。
⓯	妻沼西中学校プール	664	0	6,917	7,581	0	0	0	0	7,581	水道料金を含む。
⓰	江南中学校プール	89	0	7,631	7,720	0	0	0	0	7,720	
	合計	2,973	11	110,893	113,866	0	0	0	0	113,866	

6　管理運営の状況

利用期間は夏季のみ、利用者も対象校の児童生徒のみという制約があるため、施設としての効率性を考えると、学校プールは二重の意味で非効率とならざるを得ません。季節性の問題については、屋内プールを整備するという方法もありますが、屋外プールに比べて、（特に温水プールの場合は）整備費・運営費ともに、かなり高額になってしまいます。屋内プールを子供と地域住民が共同利用している例もありますが、高コストの問題は解決できていないように見受けられます。

一方、複数校で１つのプールを共同利用する方法は、特に、児童生徒数の少ない学校や水泳の授業時間が少ない中学校については、有効な選択肢です。学校自体は別々であっても（近隣校の）学校プールを共同利用する方法は、現に大里中学校と市田小学校、玉井中学校と玉井小学校において、実施されています。今後、学校統廃合が推進され、移動にスクールバスを使用する場合においては、利便性も向上すると見込まれるため、将来的にも有望な方法です。

7　利用者・市民の負担状況

プールに係る水道料金が判明している学校のみを取り上げ、利用者である児童生徒１人当たり又は市民１人当たりのコスト（負担状況）をまとめたものが、次頁の図表 2-3-7 A 及び B です。赤色の枠線が付された「合計」の欄は、主に施設面から見た児童生徒１人当たりの年間コストを表しています。一方、緑色の枠線が付された「合計」の欄は、市民１人当たりの年間コスト（負担額）です（市民には、児童生徒やその保護者も含まれます。）。

【図表2-3-7 A】利用者（在籍の児童生徒）又は市民の１人当たりコスト（負担状況）（小学校プール）　　単位：円

No.	名称	利用者（在籍の児童生徒）１人当たりの					利用者負担額が市のコストに占める割合 Ⓐ/Ⓔ	市民１人当たり年間コスト（負担額）				備考
		利用者負担額 Ⓐ	市のコスト									
			維持管理運営費 Ⓑ	減価償却費 Ⓒ	その他経常収入 Ⓓ	合計 Ⓔ=Ⓑ+Ⓒ−Ⓓ		維持管理運営費 Ⓕ	減価償却費 Ⓖ	経常収入 Ⓗ	合計 Ⓕ+Ⓖ−Ⓗ	
⑦	大麻生小学校プール	0	1,590	19,362	0	20,952	0.0%	3	36	0	39	水道料金を含む。
⑭	三尻小学校プール	0	1,981	17,049	0	19,030	0.0%	4	36	0	40	〃
⑯	星宮小学校プール	0	1,215	91,911	0	93,126	0.0%	0	36	0	36	〃
⑳	吉見小学校プール	0	2,460	20,706	0	23,166	0.0%	4	36	0	40	〃
㉓	秦小学校プール	0	3,413	59,563	0	62,976	0.0%	2	37	0	39	〃
㉔	妻沼小学校プール	0	2,260	15,717	0	17,977	0.0%	4	28	0	32	〃
㉕	男沼小学校プール	0	4,481	92,654	0	97,135	0.0%	2	37	0	39	〃
㉗	太田小学校プール	0	3,306	46,906	0	50,212	0.0%	3	37	0	40	〃
㉘	妻沼南小学校プール	0	3,966	65,534	0	69,500	0.0%	2	38	0	40	〃

＊　計算に用いた利用者数及び収支は、2014年度の実績値（推計を含む概算）です。

【図表2-3-7 B】利用者（在籍の児童生徒）又は市民の１人当たりコスト（負担状況）（中学校プール）　　単位：円

No.	名称	利用者（在籍の児童生徒）１人当たりの					利用者負担額が市のコストに占める割合 Ⓐ/Ⓔ	市民１人当たり年間コスト（負担額）				備考
		利用者負担額 Ⓐ	市のコスト									
			維持管理運営費 Ⓑ	減価償却費 Ⓒ	その他経常収入 Ⓓ	合計 Ⓔ=Ⓑ+Ⓒ−Ⓓ		維持管理運営費 Ⓕ	減価償却費 Ⓖ	経常収入 Ⓗ	合計 Ⓕ+Ⓖ−Ⓗ	
❹	熊谷東中学校プール	0	1,034	13,911	0	14,945	0.0%	3	34	0	37	水道料金を含む。
⓮	妻沼東中学校プール	0	1,729	16,259	0	17,988	0.0%	4	34	0	38	〃
⓯	妻沼西中学校プール	0	2,564	26,707	0	29,271	0.0%	3	34	0	37	〃

＊　計算に用いた利用者数及び収支は、2014年度の実績値（推計を含む概算）です。

誰もが通う義務教育の学校にかかるコストを市民全員で負担しているわけですので、全体としての公平性に問題はないと考えますが、児童生徒数が少ない学校ほど１人当たりの年間コストも高くなってしまいます。

８　合併等に伴う整理統合の状況

合併後は、2015 年度に大里中学校のプールを除却したのが唯一の事例です。

学校プールを存続させるか否かに関する判断材料としては、①建築後経過年数、②児童生徒数、③水泳授業時間数、④年間コストなどが挙げられます。

今後経年劣化により使用できなくなるプールについては、①により、それを改修して存続させるのか否かを検討しますが、その際には、②～④の事情などについても併せて考慮することとします。

現在既に半数近くの学校プールが築３０年を経過しているため、今後、改修を要するプールが続々と出てくることが想定されます。その際に存続の可否をその都度検討し、改修するものと取り壊すもの（使用しないもの）に振り分けることで、次第に総数が減少していくこととなります。

なお、改修する場合には、その学校そのものが当面存続していく（統廃合で休校・廃校にならない）ことも前提となりますので、学校施設全体の統廃合及び更新等のスケジュールとの整合を図りながら進めることとなります。

また、別の方法として、学校と地域とで共同利用する屋内プールを整備することが考えられます。メリットとしては、集約化を図ることで学校プールの維持管理費用を削減するとともに、屋内プールのため水泳の授業も夏季限定とする必要もなくなり、年間を通じてカリキュラムを流動的に組めるようになることなどが考えられます。

一方、デメリットとしては、①集約化によるコスト削減ができる一方で、施設単体では屋外プールよりはるかに高額であることから、トータルでのコスト削減ができる保証はないこと、②特にプールから離れた場所にある学校では、授業時間や移動手段の確保が課題となり得ること、また、③一般市民も利用するプールの場合には、授業中は市民の利用が制限されることなどが挙げられます。

９　耐震化及び老朽化対策の状況

「１　施設概要」でも触れたとおり、学校プールについては、新しいものでも建築後約２０年が経過しており、どのプールも老朽化による劣化が顕著です。それに伴い年々改修が必要なプールが増加しています。

なお、耐震化については、柱や屋根もないプールは、校舎のような建物との比較では、その必要性は低いものと考えられます（学校施設の中で優先的に耐震化すべき対象とはされていません。）。

第４節　学校給食施設

本市の学校給食施設は、学校給食法により義務教育課程の公立小中学校に学校給食を提供しています。学校給食は、児童生徒の心身の健全な発達、食に関する正しい理解と適切な判断力を養う等、重要な役割を担っています。保護者等が負担する給食費により食材費を賄い、労務費、光熱水費、維持管理費は全て市が負担して運営しています。

１　施設概要

本市は、旧熊谷・江南地区では共同調理場方式（センター方式）、大里・妻沼地区では単独調理場方式（自校方式）を採用しており、共同調理場（学校給食センター）は2施設、単独調理場（自校式給食室）は１２施設の合計１４の学校給食施設を保有しています。その概要は、図表 2-4-1 のとおりです。

熊谷学校給食センターは 1981（昭和 56）年9月に開設され、１日約１２，６００食を、旧熊谷地区の小学校１９校、中学校１２校の合計３１校に提供しています。江南学校給食センターは 1982（昭和 57）年4月に開設され、１日約９００食を、江南地区の小学校2校、中学校１校の合計3校に提供しています。学校給食センターは、できあがった給食を、搬送用トラックを使用して学校へ届けています。両施設とも建築から３５年以上が経過し、経年劣化が著しく、設備だけでなく施設の更新も必要な状況です。

自校式給食室は、小島小中学校の休校により、１１施設が稼働しています。自校式給食室は、１日約１００食から約４５０食を提供する小規模な施設です。

【図表2-4-1】施設概要（学校給食施設）　　2016年3月31日現在

No.	名称		敷地面積（㎡）	建築年度	延床面積（㎡）	耐用年限	修繕時期	耐震性能	補助金	備考
①	熊谷学校給食センター	調理棟	8,856.81	1981	3,573.16	2041	2011	△		
		その他			235.55					排水処理施設、倉庫、ﾌﾟﾛﾊﾟﾝ庫
		（小計）			3,808.71					車庫棟、自転車置場を除く。
②	江南学校給食センター	調理棟	2,315.00	1981	605.90	2031	2006	○		
		その他			11.25					ﾌﾟﾛﾊﾟﾝ庫
		（小計）			617.15					車庫棟、自転車置場を除く。
③	吉見小学校　給食室		－	1986	146.52	2036	2011	○		
④	市田小学校　給食室		－	1985	146.52	2035	2010	○		
⑤	大里中学校　給食室		－	1998	252.31	2058	2028	○		
⑥	長井小学校　給食室		－	1980	149.79	2030	2005	△		
⑦	秦小学校　給食室		－	1983	100.00	2033	2008	○		
⑧	妻沼小学校　給食室		－	1971	112.00	2021	1996	△		1996年度大規模修繕済
⑨	男沼小学校　給食室		－	1990	70.00	2040	2015	○		
⑩	太田小学校　給食室		－	1985	126.22	2035	2010	○		
⑪	妻沼南小学校　給食室		－	1993	150.00	2053	2023	○		
⑫	妻沼東中学校　給食室		－	1986	152.75	2036	2011	○		
⑬	妻沼西中学校　給食室		－	1986	153.00	2036	2011	○		
⑭	小島小中学校　給食室		－	1989	45.00	2039	2014	○		休校中
	合計		11,171.81		6,029.97					

熊谷学校給食センター、長井小学校及び妻沼小学校の給食室は、旧耐震基準に基づいて建築されたものです。また、ほとんどの施設において、現行の学校給食衛生管理基準に適合するよう改修が求められています。

2　配置状況

１４の施設の配置状況は、図表2-4-2のとおりです。

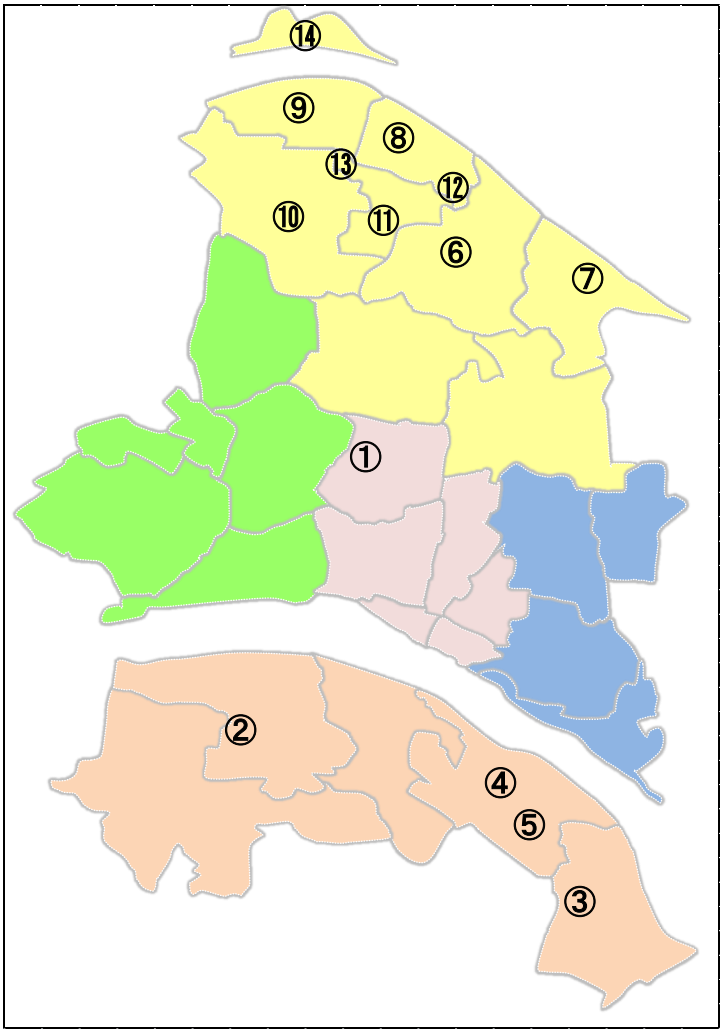
旧熊谷地区に１施設、江南地区に１施設、大里地区に３施設、妻沼地区に９施設（稼動しているのは８施設）の配置となっています。

旧熊谷・江南地区の学校給食センターは、地区全体の給食を賄うため、地区の中央付近に位置しています。大里・妻沼地区の施設は、学校に付属しているため、小中学校の配置と一致します。

3　利用状況

各施設の利用（稼働）状況は、図表2-4-3Ａ、Ｂ及びＣ（Ｂ・Ｃは次頁）のとおりです。

【図表2-4-2】配置状況（学校給食施設）



【図表2-4-3 A】利用状況（学校給食施設）

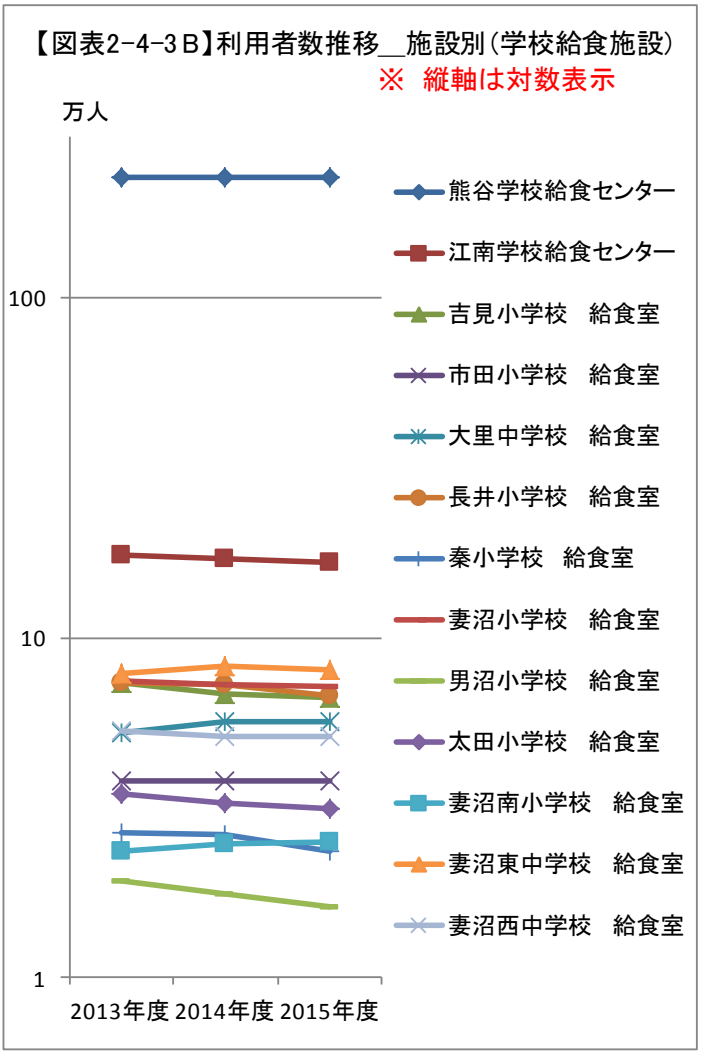
2013～15年度の3か年平均

No.	名称	年間開館日数（日）ⓐ	年間利用者数（人）ⓑ	開館1日当たり利用者数（人／日）ⓑ／ⓐ	開館率	備考（対象校数等）
①	熊谷学校給食センター	191	2,272,586	11,898	52.2%	対象校31校
②	江南学校給食センター	188	170,948	909	51.5%	対象校3校
③	吉見小学校　給食室	182	69,489	382	49.9%	対象校1校
④	市田小学校　給食室	182	37,861	208	49.9%	〃
⑤	大里中学校　給食室	182	55,327	304	49.8%	〃
⑥	長井小学校　給食室	183	71,254	389	50.0%	〃
⑦	秦小学校　給食室	184	25,472	138	50.3%	〃
⑧	妻沼小学校　給食室	183	72,898	398	50.1%	〃
⑨	男沼小学校　給食室	182	17,633	97	49.9%	〃
⑩	太田小学校　給食室	183	32,883	180	50.2%	〃
⑪	妻沼南小学校　給食室	183	24,351	133	50.0%	〃
⑫	妻沼東中学校　給食室	181	80,639	446	49.5%	〃
⑬	妻沼西中学校　給食室	179	51,989	290	48.9%	〃
	合計（全体）		2,983,330	15,772	51.1%	

＊「年間利用者数」は、1年間に調理・提供された食数（2013～15年度の平均値）です。

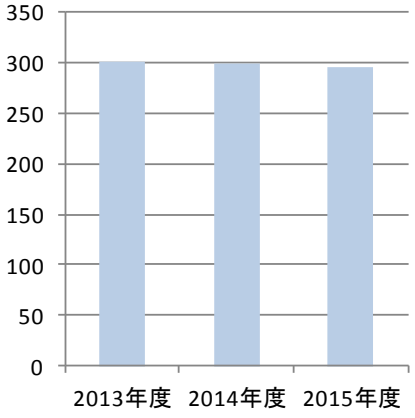
【図表2-4-3 B】利用者数推移__施設別（学校給食施設）

※ 縦軸は対数表示



【図表2-4-3 C】利用者数推移

万人　　__全体（学校給食施設）



学校給食施設は児童生徒に給食を提供するものであり、基本的に学校が休みである土日祝日、長期休みの期間は稼働していません。また、本市の給食運営は熊谷市学校給食計画により定められており、施設は年間１９２日以内の稼働で、原則、児童生徒が年間１８１回喫食するよう設定しています。

４　コスト状況

各施設の人件費を含めたコストの状況は、次頁の図表 2-4-4 のとおりです。

給食については、学校給食法第 11 条に「学校給食の実施に必要な施設及び設備に要する経費並びに学校給食の運営に要する経費のうち政令で定めるものは、義務教育諸学校の設置者の負担とする。それ以外の学校給食に要する経費は、学校給食を受ける児童又は生徒の保護者の負担とする。」と定められています。本市もこの負担区分に沿い、児童生徒の保護者には給食の食材費のみを負担いただいており、これに調理員等の給食費を加算したものが、主な収入となっています。

５　災害時の役割

学校給食センターは給食調理施設のみで人を収容する場所が無いため、災害発生時の避難場所・避難所には指定されていませんが、炊き出し・搬送により避難所運営を支援することが期待されます。

自校式給食室については、学校施設自体の指定区分に従いますが（本章第１節の図表 2-1-5 参照）、学校施設は全て避難所として指定されていることから、災害時に炊き出しをすることが想定されます。現在給食施設を有する小中学校は全てＬＰガスを使用しており、都市ガスに比べて早い復旧が見込めます。また、妻沼小学校では、2015（平成 27）年度に災害時対応ユニットを設置しました。災害時対応ユニットとは、屋外にてＬＰガスが使用できる設備のことで、ガスボンベ庫の横に取り付けられています。

なお、学校給食施設は全て１階に位置しているため、洪水時の状況によっては、多くの施設が使用できなくなる可能性があります。

【図表2-4-4】コスト状況（学校給食施設）　　単位：千円

No.	名称	費用（コスト）				収入				正味ｺｽﾄ ⓒ-ⓓ	備考（管理方法等）
		維持管理運営費		減価償却費ⓑ	合計 ⓒ=ⓐ+ⓑ	（経常）			（臨時）		
		（経常）ⓐ	（臨時）			使用料等	その他	合計ⓓ			
①	熊谷学校給食センター	961,388	16,918	32,158	993,546	567,527	524	568,051	0	425,495	
②	江南学校給食センター	96,292	240	6,231	102,523	42,413	1	42,414	0	60,109	
③	吉見小学校　給食室	24,598	1,415	1,465	26,063	16,539	0	16,539	0	9,524	
④	市田小学校　給食室	15,489	1,415	1,465	16,954	9,326	0	9,326	0	7,628	
⑤	大里中学校　給食室	23,034	0	2,103	25,137	15,939	0	15,939	0	9,198	
⑥	長井小学校　給食室	23,831	0	1,498	25,329	15,773	0	15,773	0	9,556	
⑦	秦小学校　給食室	10,903	0	1,000	11,903	5,628	0	5,628	0	6,275	
⑧	妻沼小学校　給食室	26,029	0	1,120	27,149	15,575	0	15,575	0	11,574	
⑨	男沼小学校　給食室	9,242	0	700	9,942	3,794	0	3,794	0	6,148	
⑩	太田小学校　給食室	13,164	1,166	1,262	14,426	7,137	0	7,137	0	7,289	
⑪	妻沼南小学校給食室	11,503	0	1,250	12,753	5,392	0	5,392	0	7,361	
⑫	妻沼東中学校給食室	30,705	0	1,528	32,233	20,172	0	20,172	0	12,061	
⑬	妻沼西中学校給食室	21,812	0	1,530	23,342	12,798	0	12,798	0	10,544	
⑭	小島小中学校給食室	105	0	450	555	0	0	0	0	555	
	合計	1,268,095	21,154	53,760	1,321,855	738,013	525	738,538	0	583,317	

＊1　センター方式の各校配膳室に配置される給食補助員の賃金は、各学校給食センターのコストとして計上しています。
＊2　学校給食実費徴収金（給食費）を使用料とみなして計上しています。

6　管理運営の状況

現在、各学校給食センターでは、民間委託で調理・搬送業務を実施し、大里・妻沼地区の自校式給食室では、直営で調理業務を実施しています。

効率性を追求する場合、業務委託のみでなく、施設整備から維持管理・運営までを一括して民間業者に任せるＰＦＩや、調理施設を設置せずに民間業者から給食を受配する全面委託という手法もあります。そのような事例は現在の本市にはありませんが、今後は、食の安全を確保した上で、より効率的な手法を検討していく必要があります。

7　利用者・市民の負担状況

施設利用者１人・利用 1 回当たり（給食 1 食当たり）のコストや市民１人当たりの年間コスト（負担状況）は、次頁の図表 2-4-7 のとおりです。

現在、本市では、旧熊谷・江南地区では共同調理場方式、大里・妻沼地区では単独調理場方式を採用しており、地区により給食費も異なっている状況です。また、妻沼地区は米飯を家庭から専用の弁当箱に入れて持参していますが、これは、合併前の旧町の方式を引き継いだためです。

今後については、現状を踏まえた上で、提供方法や給食費等について公平性の視点から検討していく必要があります。

【図表2-4-7】利用者又は市民の１人当たりコスト（負担状況）（学校給食施設）　　単位：円

No.	名称	利用者1人・利用1回当たり（1食当たり）					利用者負担額が市のコストに占める割合 Ⓐ／Ⓔ	市民1人当たり年間コスト（負担額）				備考（利用者負担額が維持管理運営費に占める割合）Ⓐ／Ⓑ
		利用者負担額 Ⓐ	市のコスト					維持管理運営費 Ⓕ	減価償却費 Ⓖ	経常収入 Ⓗ	合計 Ⓕ+Ⓖ−Ⓗ	
			維持管理運営費 Ⓑ	減価償却費 Ⓒ	その他経常収入 Ⓓ	合計 Ⓔ=Ⓑ+Ⓒ−Ⓓ						
①	熊谷学校給食センター	250	423	14	0	437	57.2%	4,764	159	2,815	2,108	59.1%
②	江南学校給食センター	248	563	36	0	599	41.4%	477	31	210	298	44.0%
③	吉見小学校　給食室	238	354	21	0	375	63.5%	122	7	82	47	67.2%
④	市田小学校　給食室	246	409	39	0	448	54.9%	77	7	46	38	60.1%
⑤	大里中学校　給食室	288	416	38	0	454	63.4%	114	10	79	45	69.2%
⑥	長井小学校　給食室	221	334	21	0	355	62.3%	118	7	78	47	66.2%
⑦	秦小学校　給食室	221	428	39	0	467	47.3%	54	5	28	31	51.6%
⑧	妻沼小学校　給食室	214	357	15	0	372	57.5%	129	6	77	58	59.9%
⑨	男沼小学校　給食室	215	524	40	0	564	38.1%	46	3	19	30	41.0%
⑩	太田小学校　給食室	217	400	38	0	438	49.5%	65	6	35	36	54.3%
⑪	妻沼南小学校　給食室	221	472	51	0	523	42.3%	57	6	27	36	46.8%
⑫	妻沼東中学校　給食室	250	381	19	0	400	62.5%	152	8	100	60	65.6%
⑬	妻沼西中学校　給食室	246	420	29	0	449	54.8%	108	8	63	53	58.6%
⑭	小島小中学校　給食室							1	2	0	3	休校中
	全体	247	425	18	0	443	55.8%	6,284	266	3,660	2,890	58.1%

なお、図表中の市民１人当たり年間コスト（緑色の枠の部分）をみると、給食センターの方が自校式給食室よりも負担額がかなり大きくなっています（数値の桁数で比較すると、センターが３又は４桁に対し、自校式は２桁です）が、これはセンターが複数校を対象として運営されているために見かけの数字が大きくなっていることが主な理由です。１校当たりで計算すると、おおむね同程度（同じ桁数）となります。

８　合併等に伴う整理統合の状況

現在本市では、合併前の方式を踏襲し、地区別に共同調理場方式と単独調理場方式を併用する形となっており、行政改革大綱において見直し対象施設に位置付けられている施設もありますが、学校給食施設の整理統合は、合併後実施されていません。

今後、施設の機能更新を進めるに際しては、学校統廃合の可能性も踏まえ、検討する必要があります。

９　耐震化及び老朽化対策の状況

大里中学校と妻沼南小学校以外の全ての学校給食施設で老朽化が進んでいます。

また、熊谷学校給食センター、長井小学校及び妻沼小学校の３施設は、耐震性の確保が課題です。